



SIIグループのグリーンプラン  
**社会・環境報告書**  
**2006**

社会との共存と地球環境との調和をめざして



## Contents

ごあいさつ	3
トピックス	5
SIIグループのマネジメント	7
コーポレート・ガバナンス	7
SIIのCSR	8
コンプライアンス	9
リスクマネジメント	10
SIIグループの製品概要	11
ハイライト	13
匠小省の技術・技能	13
世界レベルの高級機械式時計工房	15
電子辞書	17
<b>社会性報告</b>	
社会性への取り組み	19
信頼される製品とサービスのために	19
社会貢献	21
社員に対する支援、 安心して働ける職場環境	23
<b>環境報告</b>	
SIIグループの環境経営	25
環境教育	27
グリーン購入	28
環境目標と実績	29
環境会計	30
事業活動と環境負荷	31
拠点概要と環境負荷＜国内＞	33
拠点概要と環境負荷＜海外＞	35
環境に配慮した製品	37
ものづくりでの取り組み	41
地球温暖化防止への取り組み	41
物流での取り組み	41
3R活動（リデュース・リユース・リサイクル）	43
化学物質管理	44
工場の環境保全	45
環境活動のあゆみ	46

### 編集方針

・本報告書はSIIグループの環境活動や社会性への取り組みをステークホルダーの皆様にはわかりやすく報告することを目的に発行しています。

・作成にあたっては環境省発行の「環境報告書ガイドライン（2003年版）」など各種ガイドラインを参照しました。

・本報告書に掲載していない詳細な情報や最新情報はホームページに掲載しています。  
<http://www.sii.co.jp/eco/>

### 報告対象範囲

・SIIグループの国内10拠点、海外7拠点の取り組みを報告しています。

\* 国内の10拠点にはセイコーインスツル(株)の各事業所、関連会社、営業所を含んでいます。

\* 海外はISO14001認証取得済みの拠点を対象としています。

<報告対象範囲の主な変更>

・光事業は営業譲渡に伴い報告の範囲から外れました。

・習志野事業所の事業は高塚事業所に移転しました。

### 報告対象期間

・2005年度（2005年3月～2006年2月）の活動実績を中心に作成しています。

\* 一部それ以前からの取り組みや最新の活動報告も含んでいます。

### お問い合わせ先

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507  
 セイコーインスツル株式会社  
 環境経営推進グループ  
 TEL：043-211-1149  
 FAX：043-211-8019  
 ホームページ <http://www.sii.co.jp/eco/>

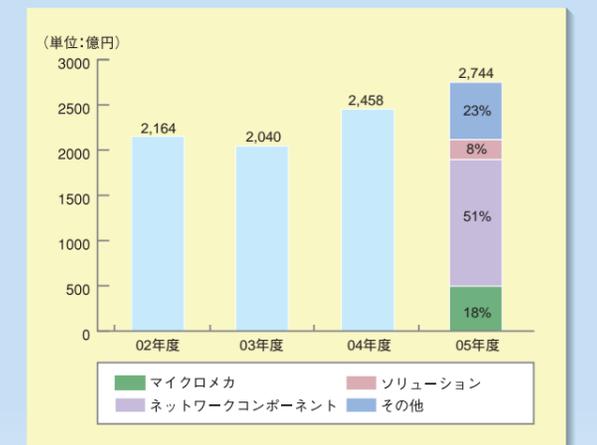
## 会社概要

社名：セイコーインスツル株式会社  
 設立：1937年9月7日  
 資本金：47.5億円  
 決算期：2月(年1回)  
 事業内容：【マイクロメカ】  
 ウォッチ、ウォッチムーブメント、  
 超音波モータ、HDD部品、  
 工作機械など  
 【ネットワークコンポーネント】  
 CMOSIC、液晶表示モジュール、  
 マイクロ電池、水晶振動子など  
 【ソリューション】  
 オーダーエントリーシステム、  
 データ通信カード、無線決済システム、  
 電子辞書など  
 【その他】  
 小型サーマルプリンタ、  
 大判プリンタ・プロッタ、  
 インクジェットプリンタ用ヘッド、  
 分析・計測機器、ネットワーク通信機器、  
 時刻配信/時刻認証サービスなど

年間売上高：(2005年度単独)1,908億円  
 (2005年度連結)2,744億円

従業員数：(単独)2,796名(出向者817名を含む)  
 (連結)14,841名

売上高推移：(連結)



2003年度は決算期を2月へ変更したため、11カ月決算の数値となっています。





代表取締役社長 新保 雅文

## 時を創り、時を活かし、時を豊かに

### 急速な環境変化の中で問われる企業姿勢

世界は、かつてないほどのスピードで目まぐるしく変化しています。アジア経済の拡大をはじめ、BRICsにおける生産活動の活発化などにより、世界のエネルギー消費は高まり、地球温暖化をはじめとする地球環境問題は年々深刻さを増しています。

また、国内では自動車や電機を中心とする製造業の業績が回復し、バブル期を超える景気拡大が続いていますが、その一方で、目先の利益にとらわれた企業による不祥事や品質事故などが相次いでいます。

こうした中、私たちが安心して豊かな生活を送ることが出来る持続可能な社会を実現するためには、地球環境への配慮とともに、人間尊重の精神、社会との共存を常に念頭に置きながら事業活動を進めていく必要があります。

### 強みを活かした製品・サービスで、持続可能な社会を目指す

そこで私たちは、事業活動における環境負荷の低減はもちろんのこと、時計製造で培った「匠・小・省」の技術、すなわち精密、小型、省エネルギー技術を活かした製品やサービスを通じて地球環境の保護に直接貢献できるような商品開発、事業展開を積極的に進めています。

例えば、これまで無水銀化が技術的に困難とされてきた酸化銀電池について、長年の研究と独自の精密加工

技術により、水銀・鉛を使わない酸化銀電池の製品化に成功しました。

また、蛍光X線分析装置SEAシリーズでは、電気電子機器をはじめとする製品や材料、そして土壌などに含まれる有害化学物質を簡単、スピーディーに検出し、2006年7月より施行されたEUにおける有害物質の使用制限を定めたRoHS指令への対応や、環境汚染の未然防止に貢献しています。

その他にも、体温や太陽光など日常生活の中にある微弱なエネルギーの活用を可能にする超低電圧駆動チャージポンプICや将来のモバイル機器向け電源として期待されるパンプ型高出力小型燃料電池の開発、さらに環境分析や土壌汚染浄化等に関するコンサルティング業務などを展開しています。このように私たちは、自らの強みを活かした製品やサービスを通じて地球環境の保護に貢献して行きたいと考えています。

### 事業活動を支える普遍的価値観 — 「誠実・信頼・感謝」

持続可能な社会を実現するためには、地球環境の保護のみならず、社会性、経済性を含む企業の社会的責任を果たしていくことが問われています。そこで私たちは、「誠実・信頼・感謝」の3つの言葉からなる理念を基本に事業活動に取り組んでいます。

この理念には、どのような仕事にも誠実さを持って取り

組み、社会やお客様との相互の信頼関係を重んじ、すべてのステークホルダーに対する感謝の気持ちを大切にするという意味が込められており、あらゆる事業活動における普遍的価値感となっています。

しかしSIIがこの理念に則った行動を果たせるかどうかは、企業を構成する社員一人ひとりの意識と行動にかかっています。なぜなら社会やお客様との接点をつなぐのは一人ひとりの社員であり、私たち全員が「誠実・信頼・感謝」に基づく行動を実践する必要があるからです。そこで、私たちは企業としての社会やステークホルダーへの公約を示した「SII企業行動憲章」と、社員が守るべき規範を示した「SII行動規範」を制定し、国内外の役員、社員のみならず、一時雇用の社員も含めて、周知と遵守の徹底を進めています。

これからも私たちは、時計製造で培われた確かな技術を基盤に、積極的に社会的責任を果たし、持続可能な社会作りに貢献していきたいと考えています。

### ご意見とご指導のお願い

本報告書をご覧いただき、皆様からの率直なご意見とご指導を賜ることでより一層の改善を図り、今まで以上に必要とされ信頼される存在となるよう努力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

セイコーインスツル株式会社

代表取締役社長

新保 雅文

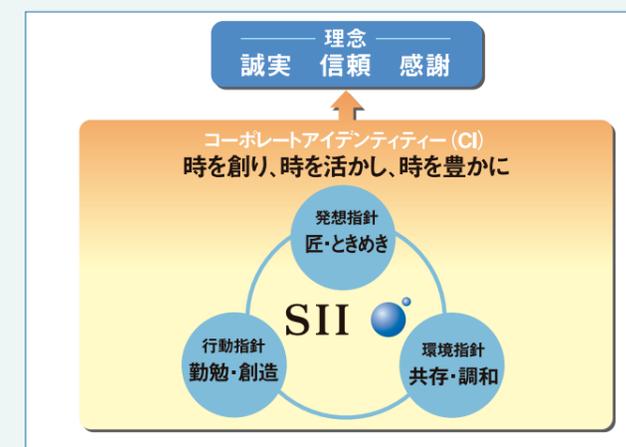
## 理念とコーポレートアイデンティティー

### 理念 誠実・信頼・感謝

どのような仕事にも「誠実」に取り組み、社会やお客様との「信頼」関係を重んじ、全てのステークホルダーに対する「感謝」の気持ちを大切にします。

### CI 時を創り、時を活かし、時を豊かに

生産効率の弛まぬ追求によって人々の「時を創り」、電子デバイスやネットワーク機器の開発によって人々の「時を活かし」、新しい価値の創造によって人々の「時を豊かに」します。



### 発想指針 匠・ときめき

誰もが真似のできない繊細な技や技術をもって、新しい価値を創造する「匠」発想と、その価値をお客様へ提供することに喜びを感じる「ときめき」発想を大切にします。

### 行動指針 勤勉・創造

高い理想や目標の達成に向け、一心に励み努力する「勤勉」さと、常に時代の一步先を見据えた新しい価値の「創造」を心掛けます。

### 環境指針 共存・調和

良き企業市民として、国際社会、地域社会との「共存」を図り、地球環境との「調和」を目指します。

## 「夢を語る文化」を創造する ドリームプロジェクト

2005年7月、「夢を語る文化」の醸成を目指す、ドリームプロジェクトを発足しました。

夢を語る文化とは、社員一人ひとりがSIIを成長・発展させる様々なアイデアを出し合い、そのアイデアをより洗練させる話し合いが部門を越えてなされている状態を想定しています。この様に社員をエンパワーメントする施策づくりを全社プロジェクト活動として展開しています。プロジェクトメンバーは全社から公募により18名が選抜され、これら公募メンバーの活動をサポートするという役割で本社スタッフが参画しています。2006年度上期中にはメンバーが作り上げた施策を会社として承認し、実行するというフェーズに移ってゆきます。社員自らが作り上げた社員活性化施策によりSIIはまた一段と大きく前進しようとしています。

## SII企業行動憲章を制定

2005年10月、「SII企業行動憲章」を制定しました。この憲章は、私たちが企業活動を行う際を守るべき社会的責任を示したもので、SIIグループが社会的責任について共通認識を持つことを目的としています。また、企業行動憲章の制定に伴い、従来の「SII行動規範」を改訂しました。▶▶ P9

## 零石高級時計工房が、 2005年日経ものづくり大賞を受賞

2005年11月、零石高級時計工房が日本経済新聞社主催の第2回「日経ものづくり大賞(2005年)」を受賞しました。零石高級時計工房は、国内のものづくりにこだわり、日本独自の腕時計づくりの技術をさらに高め、継承しようとする姿勢が評価されました。▶▶ P15



## 水銀・鉛を使用しない 無水銀酸化銀電池を開発

2005年8月、電池・キャパシタなど電子部品の開発・製造・販売を行う(株)エスアイアイ・マイクロパーツ(略称:SMP)が、水銀・鉛を使用しない無水銀酸化銀電池を開発しました。主に腕時計の電源などに使われる酸化銀電池は、正極に酸化銀、負極に亜鉛、電解液にアルカリ水溶液を使用した電池です。負極活物質である亜鉛は、アルカリ水溶液中で腐食し、亜鉛と接する集電体との間で局部電池を形成し、亜鉛の消耗、水素ガス発生による電池の膨らみや漏液などを引き起こします。これを防止するために従来は亜鉛の防食剤として水銀や鉛を微量添加していました。

SMPが開発した無水銀酸化銀電池は、SMP独自の精密加工技術を応用し、負極集電体の高精度表面処理技術を採用することにより、防食剤として水銀・鉛を使用しなくても従来の酸化銀電池と同等以上の性能を達成し、特に耐漏液性と低温での放電特性を大幅に向上させることに成功しました。水銀・鉛を無くすことにより、環境負荷低減に大きく貢献することもできます。

また、2005年10月に仙台市のSMP本社に最新設備を導入した新工場棟が完成し、品質のばらつきを最小限に抑えた高品質な無水銀酸化銀電池を生産しています。



## Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd. 創立30周年

2006年3月、Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd.(略称:SIS)が操業30周年を迎え、これを記念してLee Kuan Yew顧問相をはじめ多くのお客様をお招きし、30周年記念イベントを開催しました。SISはSIIグループ初のウォッチムーブメント海外生産拠点として、1976年公式にオープンし、SIIグループを代表する生産拠点として発展を続けています。

## 携帯電話とBluetooth™で通信できる 腕時計型の実験機を開発

2006年3月、腕時計と携帯電話との通信を近距離無線通信Bluetooth™(\*1)で行う「BT Watch」規格を搭載した腕時計型の実験機を開発しました。2005年12月にモバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)\*2で策定された「BT Watch」規格を、Bluetooth™が搭載された既存の携帯電話と今回開発した腕時計型の実験機を利用してシミュレーションすることができるようになりました。特にメールの着信については、既存のHFP(ハンズフリープロファイル)ではサポートされていないため、実験機ではSPP(シリアルポートプロファイル)を利用して、音声着信のお知らせに加え、メール着信のお知らせと、差出人や件名も表示する機能を具体化させました。実験機は実際の携帯電話と腕時計型端末を使用したことによって、電車の中や会議中などの環境で「BT Watch」規格を、現実感を持って体験することができます。同時に、普段の生活の中で使用してみることで、新たな機能や新しい使い方のアイデアが相乗的に創出できることを期待しています。今回の実験機では、携帯電話の音声着信やメール着信を腕時計の振動や音で知らせること、置き忘れ防止、時刻情報の同期等、BT Watchとして想定されている基本的な機能が搭載されています。

今後は、この実験機で得られた情報をベースに、通信手順の完成度を高めるとともに、魅力あるアプリケーションの開発、商品化を進めていきます。



\*1 Bluetooth™はBluetooth SIG, Inc.の登録商標です。

\*2 MCPC: Mobile Computing Promotion Consortiumの略。モバイルコンピューティングシステムの本格的かつ健全な市場の形成・拡大のために、通信キャリア、コンピュータハードメーカー・ソフトメーカー、報道機関等が連携し、技術・運用上の課題調査、課題への対応、共同研究、普及啓発活動等を行っている。

## 語学学習用マルチリスニングプレーヤー 「Dr.VOICE neo」を発売

2005年4月、語学のリスニング学習に必要な「学習テキスト」「音声再生(MP3)」「電子辞書」機能をコンパクトなボディに搭載した、語学学習用マルチリスニングプレーヤー「Dr.VOICE neo(ドクターボイスネオ)」を発売しました。「Dr.VOICE neo」は、語学のリスニング学習に機能を特化し、SDカード型の「シルカ」カードプレーヤーで学習コンテンツの入れ替えができる、電子辞書付きのリスニングプレーヤーです。

リスニング学習の全てが「Dr.VOICE neo」1台で可能になり、いつでもどこでもスマートに学習できます。TOEIC®テスト、センター試験リスニング、英会話などのコンテンツカードがあり、学習内容やレベルに合わせて選択することが可能です。また、学習だけでなく、MP3再生機能で音楽を楽しむこともできるプレーヤーです。



## SIIグリーン商品の創出73.2%を達成

2005年度のSIIグリーン商品の売上比率は73.2%で目標の70%を達成できました。データ通信カードなどの民生品や、半導体や水晶振動子などの電子部品は高い達成率となり、また、HDD用コンポーネントなども新たに認定商品分野に加わるなど、取り組みが進みました。▶▶ P37

# SIIグループのマネジメント

## コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーの皆様の期待に応えていくためには、利益の向上に向けた競争力の強化だけでなく、経営を監視する機能が大切となっています。近年では、その実現に向け、コーポレート・ガバナンスの重要性が以前にも増して高まっています。

### ●コーポレート・ガバナンスの基本的方針

私たちは、経営の透明性、公正性の確保のために、組織体制や仕組みを整備するとともに、必要な施策を実施し、株主等のステークホルダーの理解を得ながら企業価値の向上に取り組んでいくことをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針としています。

### ●コーポレート・ガバナンス体制 会社の機関

取締役会は、取締役6名で構成され、社外取締役・社外監査役からの指摘・意見等を踏まえ、経営に対する監督及びSIIグループに関する重要な経営判断を行っています。

監査役会は、監査役4名で構成され、定期的な監査を実施し、監査結果等について監査役相互に意見・情報交換を行い、監査の実効性の確保に努めています。

### 内部統制システムの整備

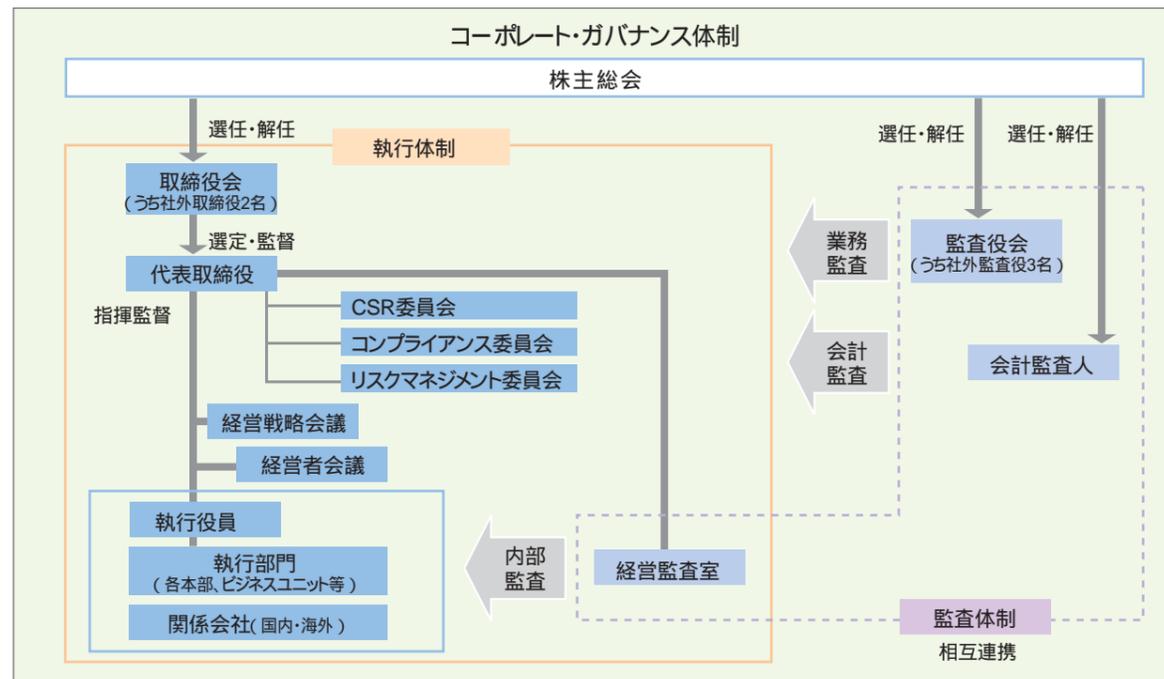
私たちは、コンプライアンスを徹底し、財務報告の信頼性を確保するとともに、各種リスクを評価管理しながら有効かつ効率的に業務を遂行するため、内部統制システムの継続的改善に努めています。

業務の有効性及び効率性を図る観点から、執行体制とし

ては、経営及び事業運営上の課題・案件を経営戦略会議で審議し、執行の意思決定の迅速化を図り、重要事項は経営戦略会議の審議を経て、取締役会で経営の決定を行っています。1999年には、経営と執行を分離し、取締役会の監督機能の実効性向上を図るべく、執行役員制を導入するとともに、その後も、複数の事業領域をビジネスユニットとしたビジネスユニット制を導入し、ビジネスユニットの長であるビジネスユニットプレジデントに対する権限委譲により、意思決定の迅速化と業務の効率化を推進しています。

内部監査部門としては、経営監査室を設置し、執行部門及び国内外の関係会社に対する内部監査を定期的実施し、適宜業務改善に向けた指摘を行っています。

監査役監査としては、監査役会で決定した監査方針、監査計画等に従い、各監査役は取締役会、経営戦略会議等の重要な会議への参加を通して、業務執行の状況を把握し、適切な内部統制システムの整備が行われているかを監視しています。常勤監査役は代表取締役と毎月定例の会合により業務執行状況の聴取・意見交換を行うほか、往査・各部門との定例会合を通じ、取締役の職務執行を監視できる体制になっています。また、現在4名の監査役のうち、3名を社外監査役とし、より公正な監査が実施できる体制になっています。



## SIIのCSR(Corporate Social Responsibility)

SIIグループの社会的責任は理念の中にその原点があります。SIIの理念「誠実、信頼、感謝」は、SIIと社会・ステークホルダーとのかかわり方の基本姿勢を示すものです。

### ●理念とCSR

どのような仕事にも「誠実」に取り組み、社会やステークホルダーとの「信頼」関係を重んじ、全てのステークホルダーに対する「感謝」の気持ちを大切にします。この理念が、事業活動を行ううえでの基本姿勢であり、またSIIのCSRの基本姿勢ともなっています。そしてCSRを遂行することにより、いつの時代にあっても社会やステークホルダーから必要とされ、信頼され続ける存在でありたいと考えています。

### ●SIIが考えるCSR

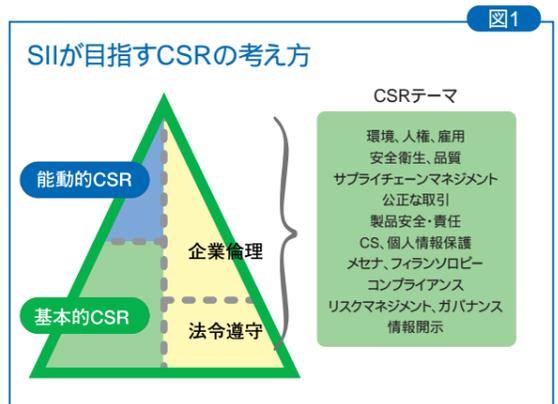
CSRは、一般的には企業が事業展開を図る過程において、経済・社会・環境に対して守るべき責任とされています。

私たちは、CSRとは社会と企業の継続的な発展を目指しながら、社会と企業との調和を重んじることと考えています。基本的には、社会に対して経済的な利益を創出すること、法令を遵守し倫理的に正しい行動に努めることです。そして、お客様や社員、株主などのステークホルダー、あるいは広く社会に対し、製品やサービスを通して新しい価値を創造し提供することと考えています。具体的には製品の信頼性向上や充実したサービス体制、働きやすい職場環境や公正な評価、環境負荷の削減などがCSRと考えています。

私たちは、事業のあらゆる側面で、社会の一員である企業市民の立場から、CSRに取り組んでいくことを目指しています。

### ●基本的CSRと能動的CSR

私たちはCSRを基本的CSRと能動的CSRという2つの見方で捉えています(図1)。基本的CSRは、法令で定められたことを守り、企業倫理にかなった行動を取ることで、公正に秩序を



守り信頼を得る、企業の基盤ともいべき責任です。能動的CSRは、法令遵守のような義務的なものではなく、ステークホルダーにとって有意義な価値を積極的に提供し、一人ひとりの満足を高めていくものです。

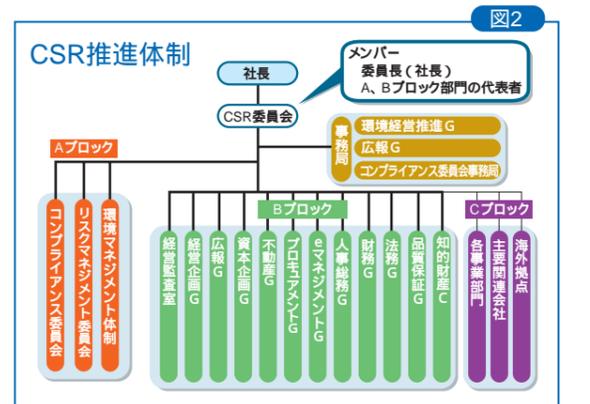
私たちは、これまでもコンプライアンス委員会やリスクマネジメント委員会を設置することで、企業の公正さや信頼性の確保に努めてきましたが、今後は基本的CSRに加え、能動的CSRにも広範囲に取り組み、SIIのブランドイメージと企業価値の向上を目指していきます。

### ●CSR委員会の活動

私たちは、全社のCSR活動を総括的に推進するために2005年1月よりCSR委員会を設置しています。委員会は、社長を委員長として、全社機能部門の代表者によって構成し、委員会権限により全社に対して施策展開が図れる体制になっています(図2)。

また、CSR委員会は、コンプライアンス委員会やリスクマネジメント委員会、環境マネジメント体制の上位に位置し、それぞれの委員会・体制と連携しながら中心的役割を担い、CSRに関連する施策を総合的かつ効果的に推進・展開しています。

2005年度は、SIIにおけるCSRの取り組み状況を把握し、その結果をふまえて、新たに取り組むべき活動としてコーポレートガバナンス、コンプライアンス、情報開示、雇用・人権、社会貢献などから20テーマを選定しました。テーマの実施にあたっては、当該本社機能部門が目標値と達成に向けたプランを作成し、委員会がテーマの進捗の管理を行い、各テーマの推進を確実なものとしています。



## ● 「SII企業行動憲章」を制定

2005年10月に「SII企業行動憲章」を制定しました。この憲章は、企業活動を行う際を守るべき社会的責任を明示・宣言することで、ステークホルダーからの信頼感を高めること、また社員が社会的責任について共通認識を持つことを目的としています。

本憲章は、SIIの理念・Cを基に、〈基本姿勢〉、〈社会とステークホルダーへ提供するもの〉、〈社会とステークホルダーへの約束〉の3つからなり、社内や社会に対して、SIIグループの社会的責任経営の決意を表明しています。

また、憲章の制定に伴い、従来の「SII行動規範」を改訂しました。

### SII企業行動憲章

SIIグループは、経済的な利益を求めただけでなく、いつの時代にあっても社会から必要とされ、信頼される存在でありたいと考えています。SIIグループは、次の基本姿勢に則り、社会とステークホルダーへ新しい価値を提供し、また約束を果たすとともに、持続可能な社会の創造を目指します。

#### 〈基本姿勢〉 誠実、信頼、感謝

どんな仕事にも誠実さをもって取り組み、社会やステークホルダーとの相互の信頼関係を重んじ、感謝の気持ちを大切にします。

#### 〈社会とステークホルダーへ提供するもの〉

「時を創り、時を活かし、時を豊かに」を使命とし、「匠・ときめき」の発想と「勤勉・創造」の行動で、社会・環境との「共存・調和」を図りながら、社会的に有用で、安全性と品質が高い製品やサービス、新しい価値を提供します。

#### 〈社会とステークホルダーへの約束〉

##### 【誠実な企業活動】

- ・遵法はもとより、情報を正しく管理し、倫理的で公正、誠実な企業活動を行います。
- ・政治や行政との健全な関係を保ち、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力には、毅然とした態度で対応します。

##### 【人間尊重】

- ・社員の人格と多様性を尊重し、働きやすい環境を実現します。成長を支援し、公正な評価と処遇に努めます。
- ・事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重します。

##### 【環境との調和】

- ・環境問題への取り組みは人類共通の課題と認識し、自主的、積極的に推進します。

##### 【社会との共存】

- ・社会と対話し、企業情報の開示に努め、開かれた企業を目指します。
- ・「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。
- ・国際的な事業活動においても、この憲章に従い、各国の発展に貢献する経営を行います。

## ■ コンプライアンス

私たちは、法令その他の社内外のルールを守り、企業人、社会人として求められる社会常識や商道徳に従い企業活動を行うこと、コンプライアンス活動を実践することが、会社としての総合力を強化することに繋がります。会社を安定的かつ継続的に発展させるものであると考えています。

### ● コンプライアンス委員会の活動

私たちは、SIIグループにおけるコンプライアンス活動を推進するために、2001年よりコンプライアンス委員会を設置し、遵法意識の普及啓発、教育等を行っています。

### ● SII行動規範の改訂

私たちは、SIIグループにおける企業活動に従事する全ての役員および社員が遵守すべき共通の規範を示すものとして、「SII行動規範」を2001年度に制定しました。2004年度に設定した理念・コーポレートアイデンティティ、

2005年度に制定したSII企業行動憲章、および国際基準等に対応するために、「SII行動規範」の内容を全面的に見直し、2006年4月1日に改訂しました。

改訂後の「SII行動規範」は、SII企業行動憲章の内容を実践し、社会とステークホルダーへの約束を果たすために遵守しなければならない基本事項が明記されています。

国際基準等に対応したことにあわせ、英語版と中国語版も作成し、海外関連会社への適用も進めています。

### ● 個人情報保護

私たちは、個人情報を適切に保護することを社会的責務と考え、個人情報保護ポリシーを制定し、個人情報保護の取り組みを推進しています。

2005年4月1日から全面施行された個人情報保護法に対応した社内規定の見直しやマニュアルの整備を行うなど、個人情報の管理体制の充実をはかっています。



社内相談窓口フォーム

### コンプライアンス教育

私たちは、遵法意識の普及啓発、個々の法令違反の未然防止のために、積極的に教育を実施しています。

#### コンプライアンス全般の教育

SIIグループの全ての役員および社員を対象に、SII行動規範の内容、機密管理と個人情報管理に関する社内ルールなどを題材とした、コンプライアンス認識度向上クイズを定期的実施し、遵法意識のさらなる普及啓発・向上をはかっています。

#### 個人情報保護の教育

個人情報の適正な管理を徹底するための集合教育を適宜実施するとともに、個人情報の盗難・紛失などがないよう注意を喚起する情報発信を随時行っています。

#### 輸出管理の教育

輸出管理の重要性と関係法令・社内ルールを理解・認識し、各部門・関連会社において適切な輸出管理がなされるよう、各事業部門に対して定期的に輸出管理教育を実施しています。

## ■ リスクマネジメント

私たちは、事業活動に重大な影響を与える様々なリスクに対して、最適に管理することでステークホルダーの皆様へ安心・安全をお届けしたいと考えています。

### ● リスクマネジメント体制

私たちはリスクマネジメントを推進するために、リスクマネジメント意識の普及啓発とリスクマネジメント体制の構築推進を目的として、リスクマネジメント委員会を設置しています。同委員会では、SIIグループ全体の事業活動にかかわる激甚災害、製造物責任 / 重大品質問題、対企業犯罪、情報システムリスク、環境リスクなどの様々なリスクの分析と評価を行い、リスクに対する未然防止対策、あるいは軽減や分散などを検討し、その対応を進めています。

### ● 『10分ルール、2時間ルール』

私たちは、実際にリスクが懸念される事例が発生した場合のトップへの情報伝達を、『10分ルール、2時間ルール』に定め運用しています。

このルールは『経営に影響する可能性のあるリスクを、本社内発生した場合は10分以内に、本社以外で起きた場合は2時間以内に社長へ知らせる』というものです。トップへの早い伝達がリスクを極小化するという考えのもと、ルールには伝達形態や職制の事前チェック等の方法は意図的に定めありません。また、後になって無駄な情報と判明しても報告したことを責めないという公約を社長が宣言しており、リスクマネジメントへの効果だけでなく、風通しのよいスピード感のある組織文化の醸成を目指した活動として定着しています。

# SIIグループの製品概要

SIIグループの商品は身近なパーソナル機器からレストランやタクシーで使用する機器、オフィスや研究所、工場などの設備として、また、部品類は多くの製品のキーパーツとして社会のあらゆるところで皆様にご利用いただいております。ここではご利用場面にあわせてSIIグループの製品と社会とのかかわりをご紹介します。

## 大判プリンタ・大判プロッタ

高速出力・高画質を基本コンセプトに建築・機械・土木・測量・電気電子回路など、様々な業種的设计現場やグラフィック業界のニーズに応えるプリンタを提供しています。



## ネットワーク製品

IP-VPNや広域イーサネットなど各種通信サービスに対応したブロードバンド製品を中心に、リモートアクセスサーバやコミュニケーションサーバ等の様々な商品を提供しています。



## 機械式ウォッチ

電子パーツを一切使わない腕時計。古典的な手巻きや自動巻き方式により時を刻み続け、メカニズムの感動的な美しさを持っています。



## アナログクォーツウォッチムーブメント

クォーツ腕時計の駆動部品として世界へ向け出荷されているベストセラー商品です。



## 内面研削盤

ミニチュア・小径ベアリングを高精度・高効率に研削することが可能で小型化とメンテナンス性を両立させたCNC全自動内面研削盤です。



## 有害物質モニタ

環境規制により家電製品や自動車などで使用が禁止されるカドミニウム、鉛、水銀などの有害物質を簡単・迅速に非破壊で測定する蛍光X線分析装置は、部品の受入検査等に広く用いられています。



## 無線クレジット決済システム“クレビコ”

日本初の無線リアルタイム認証サービスを提供するクレビコ。タクシー、訪問販売、催事や集金等のクレジット・デビットカードでの支払いのシーンで利用されています。



## オーダーエントリーシステム

オーダーリングから調理指示、会計や店舗の運営まであらゆる情報の統合管理が可能なオーダーシステムです。外食産業で活躍しています。



## サーマルプリンタ(メカ・ユニット・周辺機器)

サーマルヘッド方式で軽量、省電力、高速のミニプリンタエンジン。お客様のニーズに合わせて迅速なカスタム対応はもとより、プリントシステムのトータルサポートを提供しています。



## 分析・計測機器

原子レベルの表面観察と物性分析を行うプローブ顕微鏡、高感度・高分解能な分析が可能な熱分析装置、ICP発光分光分析装置などが研究所や企業で活躍しています。



## LCDモジュール、CMOS IC、マイクロ電池、水晶振動子

携帯電話やデジタルカメラなどの小型携帯機器をはじめとし、様々な製品のキーパーツとして多くのお客様にご利用いただいております。



## データ通信カード

PCカード型・CFカード型・SDカード型、様々なタイプでモバイルコンピューティングを推進するデータ通信カードです。



## ハードディスク用部品

ウォッチ製造で培った精密加工技術を活かしたハードディスクドライブ(HDD)用部品群。HDDの性能を格段に向上させる小型流体動圧軸受(FDB)は世界中で採用されています。



## 電子辞書

英和・和英・英英・国語・漢字辞典などを1台に収録、どんな言葉も簡単に、すばやく検索できます。収録辞書充実タイプから各言語専用タイプまで充実のラインナップです。



株式会社

工場

研究所

Restaurant



# ハイライト

## 匠小省の技術・技能

誰もが真似できない繊細な技術や技能をもって、新しい価値を創造する「匠」発想。精密細密な加工を施す技、小型にまとめあげる技術。徹底的にエネルギーマネジメントされた製品とそれを生み出す製造技術。私たちは、保有するこれらのコアコンピタンスに基づき、「SYO”ism(シヨウイズム)」という技術理念を掲げ、社会に貢献できる新しい価値を創造していきます。



Making the Future by  
"SYO"ism

### マイクロリアクター

マイクロリアクターとは、手のひらにのりような小型チップ内に検査対象を流す流路やセンサ、バルブ、化学反応部等を集積化し、この小型チップ内部に流れる気体や液体の分析や検査を行う技術です。マイクロリアクターを用いると、液体ならば一滴以下のごく微量の試料でも、高速に分析することができると同時に、分析に使用する薬液も微量にすることができます。

このような技術を実現するには、微細な流路内を流れる液体を精度高く操作することが必要となります。私たちは、MEMS( Micro-Electro-



マイクロリアクターチップ

Mechanical-Systems)技術と、腕時計製造で培ったメカ設計技術や省エネルギー技術を組み合わせ、マイクロリアクター内の液体の流れを高精度に制御するバルブや、マイクロリアクター内で液体をごく低速に流すためのポンプ等の小型化・省電力化を目指して開発を行っています。

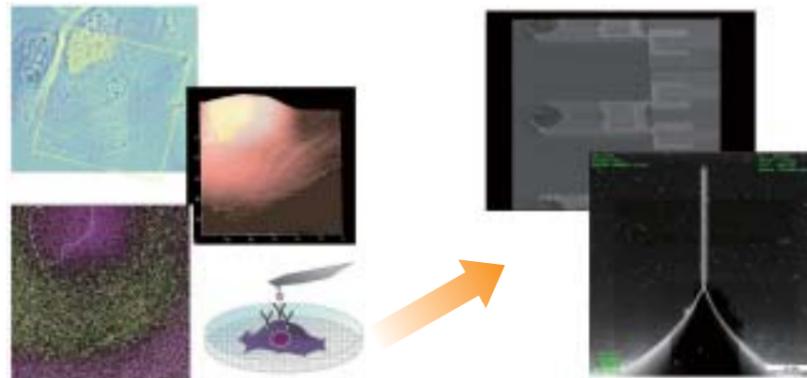


マイクロバルブユニット

### 機能性ナノプローブ

私たちは、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)基盤技術研究促進事業からの委託を受け、「物性・生体情報ナノマッピングシステム(機能性ナノプローブ)」の研究に取り組んでいます。走査型プローブ顕微鏡(SPM)技術をベースとした新規の機能性ナノプローブ開発により、バイオ分野

への革新的な観察・評価技術の提供や、プローブの阵列化・集積化技術による機能性ナノプローブ技術の分子認識のためのセンシング技術としての展開を図ります。目指す応用展開の一例として細胞レベルの観察・機能解析が挙げられます。これは、従来動物実験に依存していた毒性検査を細胞レベルでの解析・評価に置き換えるこ



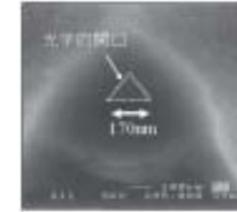
バイオSPMは光学顕微鏡での細胞観察では得られない多様な情報をもたらします。

液中観察用プローブの例。細く高いアスペクト比をもつチップ構造が特徴です。

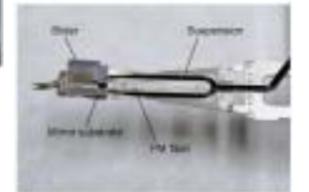
とを狙いとしましたものです。これらの技術開発によって、SPM技術を研究支援としてのみならず、広く産業界で活用されるテクノロジーへと発展させ、公的資金を基にした国家の技術レベル向上という観点からも、社会貢献を果たしたいと考えています。

### 近接場光を用いた超高密度データストレージヘッド

近接場光とは光の波長よりも小さな空間にとどまって伝播することのない特殊な光です。近接場光を利用することによって、従来の光ではまったく不可能であった超高密度の記録装置の実現可能性が開かれます。超高密度記録技術は、従来のストレージ装置の容量を数十倍に大きくすることができ、ストレージ装置の小型軽量化・省電力化を大きく進めるものです。SIIはナノレベルの加工技術を用いて微小な光学的開口を作製し、近接場光を発生させる技術を持っています。これはプローブ顕微鏡開発において蓄積してきた技術です。現在、近接場光を発生させる素子を従来の磁気記録装置に使われるヘッドアセンブリに搭載した近接場光ヘッドの開発を進めています。



開口のエッジに近接場光を局在させる光学的開口の作製結果(電子顕微鏡像)



光ファイバを利用した薄型の光導入部を接続した近接場光ヘッドを、サスペンションアームに搭載したアセンブリ

### ミニ生産システムの開発

私たちは時計部品やHDD部品をはじめとした、小型精密部品を数多く生産しています。「小さい部品は小さい設備で」、そんなあたりまえの要求を満たし、さらに一歩先を行く高性能ミニ生産システムの開発を進めています。そのひとつの取組みが、超精密ミニフライス加工機です。機械本体サイズ0.5幅×1.5奥×1.5m高のコンパクトな縦型タイプで、省スペース、省エネルギー、省人化、低コストなど徹底的に無駄を省き、環境負荷に配慮した加工機を実現しました。また、コア技術のひとつである静圧軸受け技術などを駆使して、従来機の加工品質に対して1けた上の品質を狙ったマシンの実現に取り組んでいます。

小さなサイズの中にSIIが長年培ってきた匠のノウハウと新発想がぎゅーと詰め込まれています。やがては、ナノメ

ートルオーダーの超精密加工機、高生産性加工機や超高速ミニ組立設備が、大規模工場に代わり小さな都市型工場の一室で生産稼働している、そんな夢に向かって一歩一歩前進していきます。



超精密ミニフライス加工機 全景

### シンガポールにおける研究開発拠点の設置

私たちは2006年4月、シンガポール科学技術研究庁(Agency for Science, Technology and Research)傘下の国家研究機関と共同研究を推進することを主目的として、シンガポールに日本国外で初の研究開発拠点を設置しました。シンガポールにおける科学技術の発展に寄与し、SIIにおいても将来の新製品へと開花することを期待しています。

新設の研究開発拠点は、すでにData Storage Instituteと「将来のStorage基盤技術」、Institute of High Performance Computingと「CAEを用いた開発の効率化」という領域で、3年間の共同研究基本契約を締結いたしました。次に、Singapore Institute of Manufacturing Technologyと「生

産プロセス革新」、Institute of Microelectronicsと「次世代パッケージングとセンサー技術」などの領域で共同開発を推進する予定です。最終的には、バイオ支援機器関連分野まで共同研究範囲を拡大していきます。

SIIではグローバルな産官連携により、次世代に向けた技術開発テーマの企画・推進や開発の効率化・スピードアップを図り、新事業・新製品の創出に繋げていきます。さらに、共同研究の推進だけでなく、グローバルなR&D人材の育成と現地での開発者採用、海外技術動向やニーズ把握による技術開発力の強化を目指します。

# 世界レベルの 高級機械式時計工房

## 雫石高級時計工房

私たちの国内の腕時計製造拠点である盛岡セイコー工業の中に高級メカニカル時計を製造する「雫石高級時計工房」があります。「歴史と伝統、先進テクノロジーとクラフトマンシップの融合」。これが、雫石高級時計工房のコンセプトです。その目指すところは、世界レベルでも比類ない高級機械式腕時計の専門工房です。



### 手作業による一貫生産

雫石高級時計工房は部品製造から完成品の組立てまでを、手作業によって一貫生産できる日本で唯一の高級機械式腕時計の工房です。

### 卓越した技を持つ時計技能士

雫石高級時計工房には、「現代の名工」に選ばれた組立師(桜田 守)や彫金師(照井 清)をはじめ、高い技術を持つ調整師(大平 晃)ら多くの時計技能士が在籍し、一つひとつ手作業により時計を作り上げています。

機械式腕時計の中でも特に薄型ムーブメント(時計の駆動部)は、わずかな部品の歪みや誤差などで動作しなくなることから最も難易度が高いものとされ、その組み立てには高い技能が求められます。組立師である桜田 守は、厚さ1.98mmの極薄ムーブメントを手作業により100分の1ミリ単位で部品補正を行いながら、歯車輪列のガタ量を合わせ込み、精度を確保して組み立てる技能を有しており、業界の第一人者と評されています。また、桜田 守は2005年春の黄綬褒章を受章しました。

### 見学者コース

工房には部品から完成品に至るプロセスを間近でみる事ができる見学者コースを併設しています。2004年9月の開設以来、2000名を超える見学者が工房を訪れ、好評をいただいています。

### 「雫石高級時計工房」発 機械式腕時計の12振動ムーブメントの開発

機械式腕時計の精度向上を迫り、実用品の振動数としては世界最高レベルの12振動/秒(43200振動/時)ムーブメントを開発しました。

ぜんまいによって動く機械式腕時計は、テンプの振動数が大きくなるにつれ、外乱(外部からの振動や衝撃)の影響を受けにくくなり、より安定した精度の時計になります。一方、振動数が上がると外乱の影響は減少しますが、振動数に比例してムーブメントの持続時間が低下してしまうことが問題となっていました。

今回開発した12振動ムーブメントは、現在の高精度・高級機械式腕時計の主流である8振動のムーブメントとほぼ同等の持続時間(40時間以上)を実現しています。この12振動ムーブメントの開発にはSIIの技術・技能が活かされています。

### ぜんまい・ひげぜんまいの自社製造

機械式腕時計のキーパーツとされる、ぜんまい・ひげぜんまいを自社で製造できる強みを活かし、寸法精度の高い部品を採用しています。中でも、ぜんまいは量産加工が難しく、職人が手作業で製造しています。

### がんぎ車への含油処理

がんぎ歯車の表面に特殊な電解メッキを施し、表面に微細な山をたくさん作ることで、その隙間に油を溜めて相手材との直接の接触をしにくくしています(接触面に必ず油が介在する)。これにより、高速で動く脱進機・调速機周りの耐摩耗性を向上させています。含油軸受と同じような働きをするものです。

### 測定装置の自社開発

他に類のない高振動のために、一般的な精度測定器では振動周期の精度測定が不可能となったため、専用の精度測定器も自社開発しました。



12振動ムーブメント搭載の機械式腕時計

### 技能の継承「いわて機械時計士技能評価」

雫石高級時計工房がある盛岡セイコー工業は2006年5月「いわて機械時計士技能評価」制度を創設しました。この制度は機械式時計の技能評価を通じ、技能の普及と向上及び後進への継承を行うものです。

時計に関する技能評価制度では、国家検定の時計修理技能士検定などがありますが、アナログクォーツ時計に関するものが中心となっています。「いわて機械時計士技能評価」は、試験内容を機械式時計に関わるものに絞り、機械式時計の技能士を目指す方にとって、最高レベルの水準の技能評価に

なることを目標としています。また、この制度は岩手県技能評価認定制度の認定を取得しています。

「いわて機械時計士技能評価」は、3つの等級を設定し、学科試験及び実技試験を実施、合否判定を行います。試験内容は、時計の分解掃除、精度調整、バンド調整、知識など等級ごとに難易度が分かれ、機械式時計の修理に携わる方などを中心にどなたでも受検することができます。

これまで培ってきた技術・技能を活かして、機械式時計の技能の普及・向上・継承を図っていきます。

### 第2回「日経ものづくり大賞(2005年)」を受賞

2005年11月、雫石高級時計工房は日本経済新聞社主催の第2回「日経ものづくり大賞(2005年)」を受賞しました。これは、最先端技術の導入や、独創的なものづくりに取り組む国内外の事業所を表彰するもので、全国41の応募の中から、書類選考、現地視察などを経て、11企業が選ばれました。

雫石高級時計工房は、国内のものづくりにこだわり、日本独自の時計づくりの技術をさらに高め、継承しようとする姿勢が評価され、受賞しました。

### 雫石高級時計工房の概要

構成：一次加工、サブ組立、ムーブ・完成品組立、調整・検査、梱包・出荷の各ゾーンから構成。  
時計技能士が組立作業をする機・キャビネットには、岩手の伝統家具「岩谷堂筆箱」(経済産業省認定の伝統的工芸品)による特注品を採用。  
面積：約1,000m<sup>2</sup> 工房の人員数：60名  
雫石高級時計工房のHP：<http://www.shizukuishi-watch.com/>



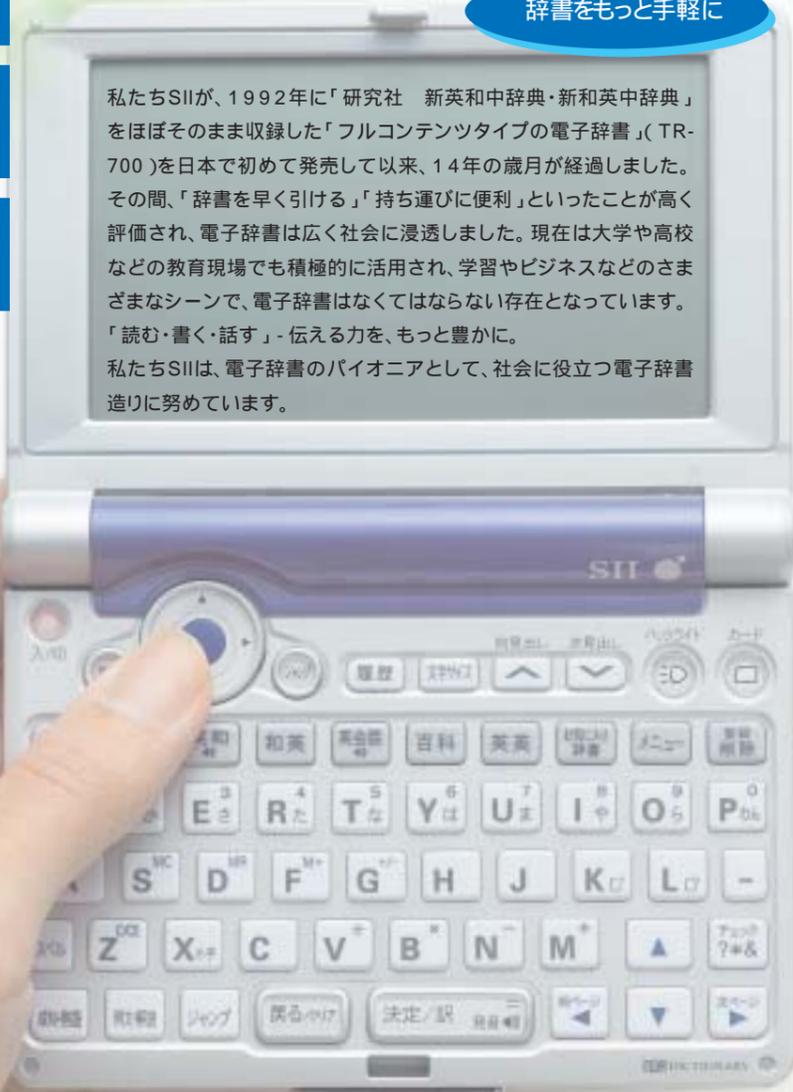
# ハイライト

# 電子辞書

## お役に立てる商品やサービスを皆様にお届けしたい

辞書をもっと手軽に

私たちSIIが、1992年に「研究社 新英和中辞典・新和英中辞典」をほぼそのまま収録した「フルコンテンツタイプの電子辞書」(TR-700)を日本で初めて発売して以来、14年の歳月が経過しました。その間、「辞書を早く引ける」「持ち運びに便利」といったことが高く評価され、電子辞書は広く社会に浸透しました。現在は大学や高校などの教育現場でも積極的に活用され、学習やビジネスなどのさまざまなシーンで、電子辞書はなくてはならない存在となっています。「読む・書く・話す」- 伝える力を、もっと豊かに。私たちSIIは、電子辞書のパイオニアとして、社会に役立つ電子辞書造りに努めています。



「快適に」「使いやすく」  
 私たちは、電子辞書のパイオニアメーカーとして、約20年前から「快適に」そして「使いやすく」をモットーにもの造りに励んでいます。パソコンのようにスムーズで正確な入力ができるSIIだけの本格派キーボード「カイトキー」をはじめ、例文検索や複数辞書一括検索などの充実した検索機能、ネイティブ音声で正しい発音を確認できる音声機能、暗い会議室などでも見やすいバックライト機能など、スムーズな使いやすさに徹底的にこだわり、「読む・書く・話す」をサポートします。

### 電子辞書の確かな品質

私たちは、常に一貫した品質基準に基づいて設計しており、長年にわたる設計経験の蓄積とお使いいただくユーザー層や使用環境の変化に伴い、改善を続けています。現在の製品は軽量・高強度を実現した携帯端末として、最適なカタチを提供しています。そこには私たちのもの造りの技術とこだわりが活かされています。

### 設計者からひとこと



CP技術課 赤塚 雄平

電子辞書はデリケートな電子部品で構成されている反面、日常的に携帯する製品でもあります。強さと軽さ、そして品質を確保しながらも、携帯性を考えた設計にこだわっています。

2005年発売のモデル( SR-V/E/MV/MK/Uシリーズ )からは、最新のマグネシウム合金・高強度アルミニウム合金を採用し、内部の設計から素材特性までを分析、高強度かつ軽量のケースで液晶パネルを保護しています。これにより、液晶パネル故障は従来と比較して60%以上も削減できました。液晶パネル製造時の環境負荷を考えると、「製品の品質を上げることで環境負荷を軽減している」といえるのではないかと思います。設計者として、これからも確かな製品をお届けして、「さすがSII」と言われたいです。

## 電子辞書で社会に貢献

### SII 全国中学校・高等学校 電子辞書 洋楽翻訳選手権

私たちは、教育現場での電子辞書の活用も積極的にサポートしています。「洋楽翻訳選手権」は、洋楽曲を課題曲として設定して、現役中学生・高校生が辞書を使いながら自らの感性で翻訳した作品を募集し、優れた作品を表彰するものです。2004年の第一回に続き、昨年は新たに中学生まで応募の範囲を広げて、全国から2万3000通を超える作品の応募がありました。

授業の一環として取り組んでいただいた学校からは、「真剣に意味を調べ、日本語を作文する生徒の姿が印象的」、「毎日こんな授業なら、とても楽しく勉強できる」などのコメントが寄せられ、中学生や高校生に英語、翻訳、そして洋楽のおもしろさや楽しさを感じてもらうことができました。

私たちはこれからも電子辞書を通じて社会のお役に立てていきたいと願っています。

\*2006年度も「第三回 SII 全国中学校・高等学校 電子辞書 洋楽翻訳選手権」を開催しています。  
 洋楽翻訳選手権HP <http://sii-dictionary.jp/>  
 電子辞書HP <http://www.sii.co.jp/cp/>



2006年ポスター



収録辞書



SR-E8500

カイトキー

### 環境への配慮

電子辞書は環境にも配慮しています。新製品開発では常に環境に配慮した設計を行い、多数のSIIグリーン商品(当社基準に基づく環境ラベルタイプ 認定品 P37参照)を創出しています。また、製品の環境負荷を数値で分析するLCA\*を実施してみると、23冊分のコンテンツ内蔵の電子辞書のCO2排出量は、紙の辞書23冊分に比べて約1/3に削減されることが分かります(SR-E8500の事例)。

私たちはこのLCAの活用により低消費電力化や軽量化など電子辞書そのものの環境負荷を更に削減するよう努めています。

\*LCA: (Life Cycle Assessment: ライフサイクルアセスメント)

商品の資源採取から部品製造、組立、輸送、使用、廃棄・リサイクルにいたるまで、各々のライフステージで投入されるエネルギー量、材料の使用量、排出されるCO2などを把握・分析し環境への影響を総合的に評価する方法。

# 社会性への取り組み

SIIグループは「社会に有益な価値」を提供し、「企業市民」として継続して発展するために、さまざまな活動を行っています。私たちの社会性の考え方と取り組みについて報告いたします。

## 信頼される製品とサービスのために

SIIグループは時計、電子辞書をはじめとする民生機器から、電子部品、分析・計測機器、IT端末など、幅広い分野の商品を国内外のお客様に提供しています。このような商品を提供することによって、お客様の価値創造に貢献し、ご満足いただけることを目指しています。

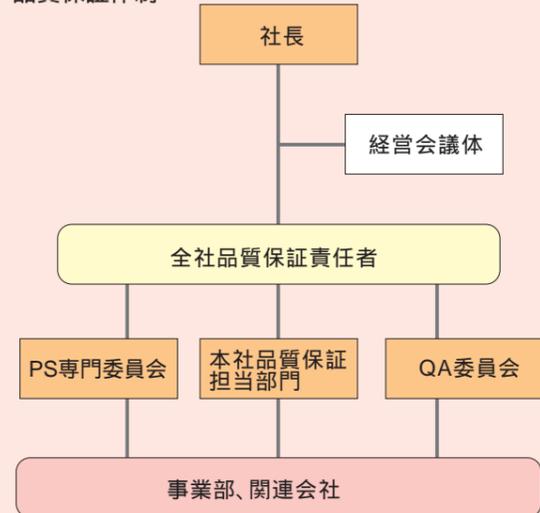
### 品質保証活動

「お客様価値を創造する Q( Quality 品質 )、C( Costコスト )、D( Delivery 納期 )、S( Safety&Service 製品安全及びサービス )を提供する」

これはSIIグループの品質基本方針です。この基本方針はSIIグループの品質保証活動に責任を持つ「全社品質保証責任者」によって各事業部門・関連会社に展開され、各事業部門・関連会社は、これを受けて自事業部門・関連会社の品質方針及び目標を定め品質保証活動を行っています。

国内外の各拠点、事業部門では品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しています。品質基本方針の展開にあたっては、品質マネジメントシステムの骨格である継続的改善の考え方を採り入れるとともに、お客様のご意見を反映させ、お客様に喜んでいただけるような活動を続けています。

### 品質保証体制



### 製品安全

SIIグループ全社PL/PS(製造物責任/製品安全)方針に則り、「お客様へ安全な製品、サービスを確実に提供し、お客様の信頼を高める」ことが製品安全についての基本的な考え方です。

本品質保証部門、各事業部門、法務部門など関係部門で構成されるPS( Product Safety )専門委員会を設置して確かな安全をお届けできるように努めています。

### お客様満足の向上に向けて

私たちはお客様にとって価値ある商品やサービスを提供することで、「お客様の満足」の向上を図っていく「C2( Customer Creation )活動」を展開しています。お客様のご要望を素早く把握し、それを具体的な形でご提供できることをめざしています。日頃からお客様との信頼関係を築き、お客様の視点で商品の企画や開発を行うように取り組んでいます。

2005年12月からは顧客重視経営をより積極的に推進していくために、これまでのC2推進員会議から、規模を拡大したC2推進委員会をスタートさせました。

各事業部の営業部長クラスのメンバーで構成し、C2に関する討議や取り組みの報告を行っています。

### SIIお客様相談室

お客様からのお問い合わせやご相談などをお受けする窓口として「SIIお客様相談室」を設置しています。SIIお客様相談室では、迅速で正確、誠実な対応を心掛け、お客様にご満足いただけるよう努めています。

お客様からお寄せいただきましたご意見、ご要望、お困りの声などについては、その内容に関する事業部との連携のもと、お客様へご返事させていただくとともに、製品の品質改善などに有効に活用させていただいています。

また、修理サポートの実施内容に関するアンケートによりまして、お客様にご満足いただける、アフターサービスの品質向上にもさらに力を注いでいます。

### 大連精工電子有限公司(中国)がISO/TS16949:2002を認証取得

2005年9月、大連精工電子有限公司(略称:DSI)の精密部品製造部門は自動車業界の品質マネジメントシステム規格であるISO/TS16949:2002の認証を取得しました。ISO/TS16949:2002は、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001に米国、欧州の自動車業界固有の規格を融合させた規格であり、自動車関連製品の設計、開発、製造、設置、サービスに対する品質システムの要求事項を定めています。

DSIでは全部門でISO9001の認証を既に取得していましたが、自動車用部品(ABS部品)の製造を行っている精密部品製造部門ではISO/TS16949の認証取得を目指し、品

質保証部と実行委員会を中心に全社員が一丸となり取り組んできました。今後も品質マネジメントシステムの継続的改善と顧客満足度の更なる向上を目指し努力していきます。



認証書

認証書を囲む関係者

### 情報セキュリティ

情報セキュリティに関する企業責任はますます重大なものとなってきています。事業活動に関する情報やこれらの情報を管理する情報システムは、SIIグループの重要な資産でもあります。

私たちは情報システムに関する問題が原因となり、事業運営に支障をきたすことがないように、物理面、管理面、技術面からセキュリティ強化を図っています。「情報システムセキュリティ・ポリシー」を制定し、セキュリティ目標を設定するとともに、整備体制と様々な基本原則を定めることで、システムの安定稼働とデータの保護を図っています。また、ポリシーに基づき「イントラネット規定」、「システム管理規定」など情報セキュリティに関する社内ルールやガイドラインなどを設定し、体系的かつ効率的な情報セキュリティの確保に努めています。

### データ通信カードにPCのセキュリティ機能を付加

私たちは提供する製品についても情報のセキュリティを考慮しています。

2006年5月に発表したデータ通信カードの新しいセキュリティ機能は、データ通信カードがセキュリティキーとなり、PCにデータ通信カードが挿入されていないと、PCがロックされて一切の操作ができなくなる、という機能です。たとえPCの紛失や盗難があっても、データ通信カードを別に管理していればPC内情報の漏洩を防ぐことが可能になります。

通信カードへのセキュリティ機能の付加はホームページからのダウンロードが可能です。これからは様々な付加価値を持った製品を提供していきます。



### 知的財産強化に向けた取り組み

私たちは、中・長期方針「知的財産を尊重・重視する企業風土の醸成」を掲げ、知的財産強化のための取り組みを進めています。他社権利侵害の予防のためには、特許調査インフラの強化を図りながら製品化・事業化の前に十分に特許調査とその対応を行っています。出願・権利化については、開発戦略部門と連携し重点技術に絞った発明の発掘活動の強化と、特許マップに基づく出願活動などによりキーパテントの権利化を進めています。

一方、保有特許の活用については、最もメリットのある活用形態を選択して積極的な活用を図っています。また、不用特許は積極的に「特許の開放」を進めています。

### サプライヤーのみならずと共

事業活動にはサプライヤーの皆様のご協力は不可欠です。私たちは、より良いパートナーシップの醸成を目指し、定期的に「サプライヤーズミーティング」を開催しています。第3回目は2005年11月に開催し、118社の方にご参加いただきました。当日はSIIグループを取り巻く市場環境や現状、調達活動に関する基本姿勢などを説明し、事業活動へのご理解、ご協力をお願い致しました。

今後もサプライヤーの皆様とSIIグループが共に成長し続けることを目指していきます。



サプライヤーズミーティングの様子

## 社会貢献

SIIグループは良き企業市民として社会のお役に立てるような社会貢献活動を行ってまいります。

### ● Think the Earthプロジェクトへの参加

Think the Earthプロジェクトは、日常生活のなかで、地球のことに考えたり、感じたりするきっかけを作り出していく非営利プロジェクトです。基本テーマは「エコロジーとエコノミーの共存」で、ビジネスを通じて社会に貢献する仕組みを提供し、世界中の企業や個人が参加して、一人ひとりが地球のことを考えるきっかけを作っていくことを活動テーマにしています。また、グローバルな視点を持ち、ローカルな一人ひとりの声をつなぐインターネットの可能性を最大限に活用しています。

Think the Earthから生まれる商品やサービスの売上の一部は、NPO、NGOの支援金、またプロジェクトの活動基金として使われます。

SIIIはプロジェクト発足時より事業パートナーとして参加し、プロジェクトとして初の製品となった地球時計「wn-1」(北半球版)を開発しました。その後南半球をイメージした「ws-1」も開発し、これらの地球時計を通じて地球を考えるきっかけになって欲しいと願っています。

2005年12月に開催されたエコプロダクツ展ではThink the Earthプロジェクトより地球時計を展示しました。



wn-1は地球針(24時間針)を持つ“Watch”で、この“Watch”には「地球を見る」と「地球の時計」とふたつの意味があります。「身につけること、そばに置くことで地球を考えるきっかけになる時計になって欲しい」と願っています。

Think the Earthのホームページ  
<http://www.thinktheearth.net/jp/>

Think the Earth

### ● 子供向けホームページ「ときをまなぼう」

セイコーグループ3社は、時に関わる企業として、子供たちが「時や時間」について考えるきっかけとなり、また親や先生など大人と子供と一緒に楽しむことができるホームページというコンセプトで、2000年6月10日「時の記念日」に「ときをまなぼう」を開設しました。時と時間の不思議をクイズ形式で展開する「不思議クイズ」、時計と色々な人の関わりを紹介する「時計と人」、時と時計の話を世界中から集めて紹介する「時と暮らし」など、楽しく分かりやすい内容を毎月更新しています。これからも、限りある大切な「時」をより一層意味のあるもの、価値のあるものとして21世紀を担う子供たちに伝えていきます。



ときをまなぼうのホームページ  
<http://www.kodomo-seiko.com/>

### ● SII幕張ビルでクリスマスイルミネーションを実施

2005年12月、SII幕張ビルの外壁を利用したクリスマスイルミネーションを4年ぶりに実施しました。これは、地域のみなさまをはじめ、多くの方々に楽しんでいただくためのSIIからのクリスマスプレゼントです。

イルミネーションは外壁面の窓に取り付けられた約1,200個のブラインドを開閉することにより、室内照明で形づくりします。このデザインは「夢を語る文化の醸成」の一環として、社員からデザインを公募しました。入選作「雪の中のツリー」は遠くからでも見ることができ、またSII幕張ビルは東関東自動車道に面しているため、車の中からもイルミネーションを楽しんでいただくことができました。

また、クリスマスイルミネーション実施に際し消費した電力に相当する費用と同額を、環境保全への取り組みとして、ちば環境再生基金に寄付しました。



ビルの壁面を彩る「雪の中のツリー」

### ● 財団法人新世代研究所(ATI)の活動

財団法人新世代研究所は、1993年にSIIからの寄付金によって設立されました。「新世代の科学・技術の発展に寄与することを通じて人類社会に貢献する」ことを設立目的とし、現在研究領域を「ナノ」に絞って活動しています。学術研究者による研究会活動、若手研究者へ助成金を支給する助成活動をはじめ、国際的なシンポジウムへの協賛や定期的な市民講座の開催などを行っています。市民講座「ATIフォーラム」は年に2回開催され、最新の科学技術や文化の話題を広く社会に紹介し、新時代の潮流を考える機会を提供しています。

2005年10月には、長年にわたる活動を通して日本における科学技術の発展に貢献したことが評価され、世界物理年日本委員会より感謝状をいただきました。

ATIのホームページ <http://www.ati.or.jp/>



研究報告会の様子

### 地域のクリーンアップ活動

SIIグループの各拠点では、定期的に地域のクリーンアップ運動を実施しています。

エスアイアイ・マイクロパーツでは、「全員参加」の清掃活動を年2回実施しています。2005年4月に実施した際は、社長以下約200名の全社員が参加して工場周辺の清掃を行い、回収した廃棄物は200kgに及びました。



社員と回収した廃棄物

### 世界環境の日、環境宣伝活動に参加

大連精工電子有限公司(略称:DSI)は2005年6月5日(世界環境の日)、大連市主催の環境宣伝活動に参加しました。今回の活動テーマは「全員参加でグリーン・ホームをつくらう」です。

DSIは環境活動の取り組みを示した掲示板を大連星海広場に展示し、社員の代表50名が決意表明をして、市民の環境保全の意識高揚と社員の団結力の強化を図りました。



参加者による決意表明

### 工場見学や体験実習

私たちは、学生のみなさんの工場見学をはじめ、職場体験学習やインターンシップなどを受け入れています。

#### 環境教育への支援～エコ探検隊～

宮久保事業所(千葉県)では、地元の市川市立大洲中学校の「エコ探検隊」の取材活動に毎年協力しています。「エコ探検隊」は同校の竹澤伸一先生がサポーターを務め環境活動に熱心な生徒達が、環境に優しい活動をしている企業を主体的に探検に行くグループです。

宮久保事業所では2005年も約10名の訪問を受け入れ、当日は製造工程や環境施設の見学の他、環境問題について広範囲で真剣な質疑応答を行い、SIIのものづくりに関わる環境活動を理解していただきました。



エコ探検隊のみなさん

#### 校外学習への協力

2005年10月、栃木事業所(栃木県)は、栃木市立栃木第五小学校の総合学習の授業「五小学区のじまんをしよう」に協力しました。これは調べ学習を進める上で学区内の工場や公共施設、商店などを児童のみで訪問し、見学、インタビューや写真撮影を行う活動です。当日は7名の生徒が訪れて、栃木事業所について熱心に研究していただきました。



訪問された生徒のみなさん

これらの活動の他、社会や地域への貢献に努めています。各種募金活動、献血活動などの社会貢献活動や、地域への貢献活動として、近隣学童の横断歩道での誘導をはじめとし、地域の行事開催時における駐車場の開放、送迎バス駐車場の提供や、子ども会のラジオ体操へ場所を提供するなど、広くお役に立てるように努めています。

## 社員に対する支援、安心して働ける職場環境

SIIグループは社員一人ひとりの人格と多様性を尊重し、働きやすい環境の実現を目指しています。

### ● 納得感のある人事制度の定着

私たちは、2003年に職務価値および顕在能力の発揮度で個々人の賃金を決定する賃金体系を導入いたしました。評価に対する社員の納得感を高め、さらなるモチベーションの向上につなげていくために、全管理職を対象に賃金体系の正しい理解や、適切な評価を行うための評定者研修を実施してきました。

また、評価のみならず、社員個々人の能力開発を促進していくために、能力開発目標設定に焦点を当てた研修、さらに部下育成の観点に立ったコーチングスキル研修を全管理職に実施しています。

### ● グループ内会社の人事制度ポリシーの統一化

私たちは2003年に賃金体系を変更し、職務価値、能力の発揮度にもとづくものとし、納得感ある評価制度を構築してきました。その後、同様な考え方を国内関連会社にも展開し、国内のグループ会社は同一の考え方で人事制度が運用されています。

現在、その考え方を海外現地法人へも適用することとし、SIIグループとして統一した人事ポリシーのもと、それぞれの国の文化・法律などに合わせて人事制度の変更を検討し、2005年4月以降、海外現地法人のうち、6社が新制度へと移行しました。日本でも海外でも同様な考え方による評価を実施することで、現地社員の納得感を高め、SIIグループで働くことへのモチベーションを高めるようにしています。

また、現地の管理職層に対して、部下の能力開発目標設定の重要性を理解する管理者研修を行い、SIIグループのグローバル展開を支える海外現地法人社員の人材について、積極的に育成を進めています。

### ● 社員のキャリア開発・構築に対する支援

私たちは、自らキャリアを構築し、自らにミッションを課して自ら成長できる自立・自己責任型人材の育成を進めています。そのため社員が自らキャリア開発を実現できるように支援するための人事制度として、大きく分けて二つの支援制度を展開しています。一つは社員の自立的なキャリアデザインの支援です。制度としてはポイント年齢(28歳から48歳までの5歳ごと)到達者への研修と休暇制度があります。一定の年齢ごとに研修・休暇付与をすることで、社員が自立・自己責任の姿勢で自己育成できるよう支援しています。

もう一つは社内での社員自らによるキャリア構築の支援です。キャリア構築を社内において自ら実現できるように、キャリア選択の幅を広げる制度として「FA制度」、「社内公募制度」、「公募留学制度」があります。SIIは積極的にキャリア構築することで自らの価値を高める人材を支援していきます。

### ● プロフェッショナル人材制度

私たちはSIIの継続的な発展に寄与する高度な専門性を保有している社員をプロフェッショナル人材として認定し、その技術・技能の伝承および後継者の育成を担うことを目的として、プロフェッショナル人材制度を制定しています。知財、法務、開発・設計業務などを専門とするスペシャリストと、加工、組立など製造業務を専門とするマイスターで構成され、上級者には更にゴールド、シルバーの称号を与えています。

### ● 育児・家族介護に対する支援

私たちは、子の養育・家族の介護を行う社員を支援するとともに企業と社会の発展のため、育児・家族介護に関わる各種制度を定めています。改正された育児・介護休業法を踏まえ、休業の対象を育児休業期間に保育所へ入所できない場合等に限定せず、休業期間を1年6ヵ月まで延長しています。また、未就学児童を養育する社員に対しては就業時間のシフトを2005年4月に導入するなど、制度の拡充を積極的に図っております。

今後も、社員が仕事と家庭生活を両立できるような働きやすい職場環境の醸成に努めていきます。

### ● 高齢者雇用

私たちは、社員がSII社内で培った技術・技能を次世代に伝承するために、従来から60歳の定年後も嘱託社員として再雇用してきました。2005年4月以降は、この適用範囲を拡大し、知識・技術・ノウハウの伝承と高齢者雇用の積極的推進を行っています。

また、高齢者雇用会社としてSIIグループ内の業務をサポートすることを目的とした株式会社セシカを設立いたしました。私たちは高齢者の方が生き生きと働ける場をより多く提供できるよう努めていきます。

### ● 社員の健康管理

私たちは、社員の健康保持・増進、疾病予防のために、各種検診や健康作り活動を推進しています。健康作り活動では、生活習慣病予防セミナー、ウォーキングキャンペーン・体力測定などを開催しています。

過重労働による健康障害の防止に向けた取り組みとしては、労働時間管理の徹底や、長時間残業者には産業医の面談を義務付けています。

また、海外赴任者には2年に一度産業医が巡回し、健康相談を行い、国内のみならず海外にも目を向けフォローに努めています。



健康づくりセミナーの様子

### 「AED(自動体外式除細動器)の紹介と取扱い説明会」を開催

SII幕張ビル・防災総合訓練において、例年実施している『通報・初期消火・避難』の3つの訓練に加え、訓練終了後に、所轄消防署救急係のご協力をいただき、「AED(自動体外式除細動器)の紹介と取扱い説明会」を併せて行いました。

AEDは、これまで医師・看護師・救急救命士にしか扱えなかったものでしたが、一般の方でも一定の講習を受けることにより、取扱いできるようになった救命装置で、最近注目を集めています。各自治体もその普及に努めていることから、SII各事業所での導入に向けた第一歩として、説明会を開催し社員の意識向上を図りました。一般生活のなかでの緊急時の救命技術としても役立つことから、社員の救命講習受講の促進・援助、あるいは、事業所でのAED機器の設置などに取り組んでいます。



説明会の様子

# SIIグループの環境経営



SIIグループでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクト・グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し環境経営を実践しています。

## ● SIIグループ環境方針

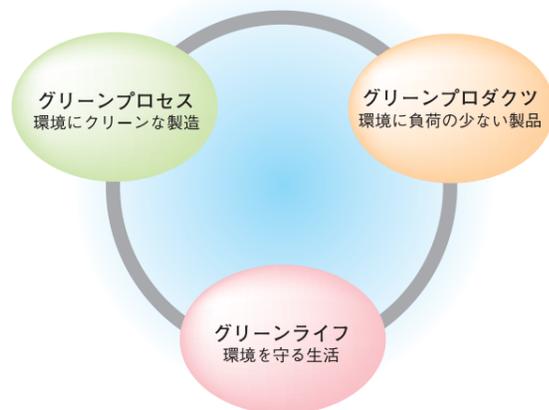
### 環境理念

SIIグループは良き企業市民として、企業活動と地球環境との調和をめざし、環境の保全と継続的向上に努め、全ての生命と共生できる持続可能な社会の実現に貢献する。

### 環境活動指針

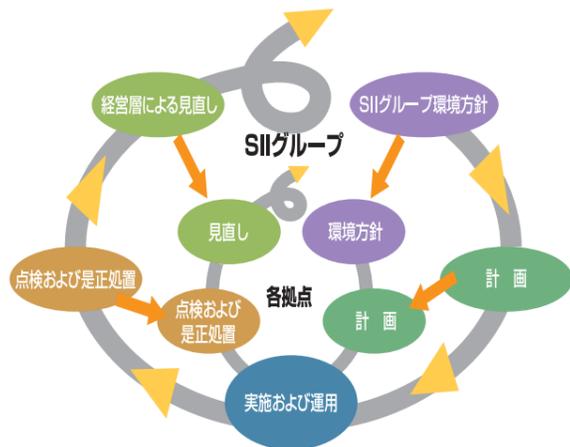
1. 環境マネジメントシステムを維持し、かつ継続的な改善を図る。
2. 環境関連の法規制、協定等を遵守し、環境汚染の未然防止を図る。
3. 製品・サービスを通じて環境保全に貢献する。
4. 環境負荷を継続的に低減するために次の項目に取り組む。
  - (1) ライフサイクルにわたって環境負荷を低減した製品・サービスを提供する。
  - (2) 省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に寄与する。
  - (3) 省資源、および3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進する。
  - (4) 化学物質による環境リスクを低減させるとともに、有害物質の排除を推進する。
5. あらゆる製品・部品・サービスの調達に際し『グリーン購入』を推進する。
6. 内部環境監査を実施し、自主管理の向上を図る。
7. 環境に関する社会活動により、社会に貢献する。
8. 全社員に環境教育を徹底し、意識の向上を図ると共に、一人ひとりが身近な生活においても環境保全に努める。
9. 環境マネジメントシステムの運用状況について、社会各層に積極的な情報開示を図る。

## ● グリーンプラン概念図



## ● 環境マネジメントシステム

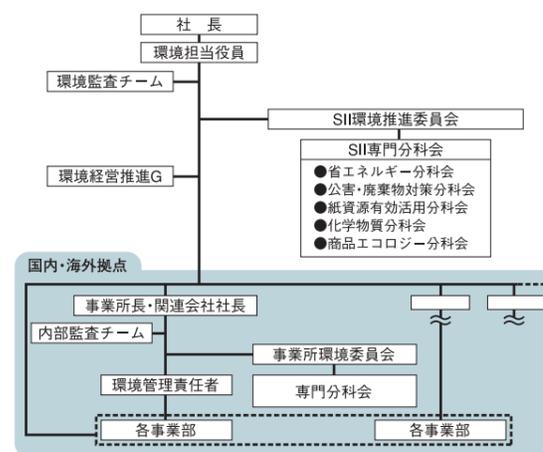
私たちは、グループ全体として、また各拠点についても環境マネジメントシステムを構築し、Plan - Do - Check - Actのサイクルを確実に回し、環境負荷の低減に努めています。私たちは「SIIグループ環境方針」に基づき、環境活動における中期目標や年度目標を策定しています。これらの目標は各拠点の環境マネジメントシステムによって展開され、その活動実績は定期的に本社へ報告されます。本社では全グループを統括した環境マネジメントシステムを運用しています。



## ● 推進体制

セイコーインスツルの社長のもと、環境担当役員を最高責任者として、環境マネジメントシステムの推進体制を構築し、運用しています。SII環境推進委員会を最高決定機関とし、省エネルギー等の横断的テーマについては本社の環境経営推進グループが事務局となり全グループ専門分科会を設置して推進しています。

2004年度からは、従来のSII環境推進委員会に海外拠点からの参加を含めた「SII・Global環境推進委員会」を開催し、SIIグループの環境方針、目標を共通に認識しながらグループ連結の環境経営を推進しています。



## ● ISO14001:2004への対応

私たちは国内、海外共に主要拠点でのISO14001認証取得を完了しています。2005年度は各拠点でISO14001:2004への移行に取り組み、終了しました。

### ISO14001認証取得一覧(認証取得順)

認証取得事業所・会社	所在地	取得年月
1 高塚事業所	千葉県松戸市	1996年11月
2 宮久保事業所	千葉県市川市	1997年3月
3 SIIマイクロテック株式会社	秋田県大仙市	1997年4月
4 盛岡セイコー工業株式会社	岩手県岩手郡	1997年4月
5 栃木事業所	栃木県栃木市	1998年2月
6 SIIナノテクノロジー/小山事業所	静岡県駿東郡	1998年8月
7 株式会社SIIマイクロパーツ	宮城県仙台市	1999年2月
8 大野事業所	千葉県市川市	1999年3月
9 須賀川プレジジョン株式会社	福島県須賀川市	2001年9月
10 本社・幕張事業所	千葉県千葉市	2001年10月
11 西日本営業拠点	大阪・名古屋 福岡・広島・富山	2002年9月
1 Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd.	シンガポール	1997年5月
2 大連精工電子有限公司	中国・大連	2001年6月
3 Seiko Instruments (Thailand) Ltd.	タイ	2002年3月
4 Instruments Technology (Johor) Sdn.Bhd	マレーシア	2002年10月
5 広州精工電子有限公司	中国・広州	2003年7月
6 広州精工技術有限公司	中国・広州	2005年3月
7 Seiko Instruments (H.K.) Ltd.	香港	2005年3月

## ● 環境監査

環境監査は、環境マネジメントシステムの維持のためだけでなく、マネジメントシステムとパフォーマンスとの継続的な向上のためにも極めて重要であると考えています。私たちは、内部監査を全ての主要事業所において必ず毎年1回以上実施しています。監査員は、事業所内だけでなく他事業所や本社からも参加することにより、高い有効性と事業所間の情報交換による相乗的な効果を狙い、同時に、SIIグループ環境方針やグループ目標の水平展開の徹底を図っています。

2005年度 内部監査 実施回数：国内全10拠点で全11回実施

指摘件数合計：247件	軽微な不適合	40件 (63)
	オブザベーション	207件 (280)
最多指摘は力量・教育訓練及び自覚		24件

( )は前年度件数

また、内部監査の信頼性を上げていくためには、内部監査員の育成が必須です。私たちは内部監査員教育を定期的に開催すると共に、「SII環境監査員認定制度」を設け監査員のレベルアップを図っています。内部監査の際は、SII環境監査員や公式環境審査員の資格保有者が加わり助言することで、監査の質の向上だけでなく監査員のOJT効果も期待しています。更に、定期的な認証機関の審査により、客観的な評価を受けています。

SII環境監査員	27名
環境監査員教育修了者	489名
公式環境審査員：16名 (CEAR <sup>1</sup> 登録審査員)	主任審査員 7名 審査員 3名 審査員補 6名

<sup>1</sup> CEAR：環境マネジメントシステム審査員評価登録センター

### 大連精工電子有限公司が 模範環境保全企業賞を受賞

2005年6月、大連精工電子有限公司は、「法規制を確実に遵守し、製造工程で排出される汚染物質削減に努め、継続的に環境活動を展開する」という環境方針に基づく長年に渡る確実な環境活動が高く評価され、大連環境保護局より「模範環境保全企業」として表彰されました。今後も継続的に取り組んでいきます。



表彰銘板

## 環境教育

環境活動を支えて継続的に改善していくには、社員一人ひとりの協力と参加がなければ達成できるものではありません。SIIグループでは社員が正しい知識を身に付け、それを行動につなげていけるよう環境教育・啓発に取り組んでいます。

### ● 全社環境教育

SII本社が主催する環境教育をはじめ、各拠点でも教育計画を立てて実施しています。2005年度の本社主催の教育には169名(累計2007名)が参加しました。

本社主催の環境教育	
一般教育	
種 類	対 象
地球環境問題とSIIグループの取り組み	新入社員
環境保全活動講座中堅者コース	中堅社員
環境保全活動講座管理者コース	管理者
環境保全活動講座営業担当者コース	営業担当者
専門教育	
種 類	対 象
廃棄物管理講座	取扱従事者
化学物質管理講座	環境設備 運転者
省エネルギー講座	生産・ 製造技術者
環境配慮型製品講座	開発担当者
社内資格者養成教育	
種 類	対 象
環境内部監査員養成講座	各拠点の 資格者候補
環境リスクコミュニケーター養成講座	

### ● 体験・体感できる教育

教育では講義による知識の習得はもちろん、より実践的な教育を目指しています。

環境内部監査員養成講座では模擬監査ロールプレイの実施、環境リスクコミュニケーター養成講座では会社と住民によるコミュニケーションのロールプレイの実施、環境配慮型製品講座ではモデル製品でのLCAの実習、化学物質管理講座では実際に化学物質を使用している現場の見学や職場作業環境測定の実習など、体験・体感できる教育を実施しています。

また、省エネ講座では講師を外部の専門家に依頼し、モデル事業所の環境施設の現場を巡回し、問題点を抽出する、というより実践的な教育を試みま

した。教育後はアンケートを実施し、次回の教育に反映させることにより、環境教育も継続的に改善しています。



省エネ講座の様子

### ● インtranetを使った啓発活動

定期的で開催する環境教育の他、社内のIntranetに環境専用の掲示板「エコタウン」を開設し、各種環境情報の発信、環境用語の解説や環境法規制情報の提供などを実施しています。また、「エコタウン」には「それいけ!エコイズ」のコーナーを設け、社員が楽しみながら環境の勉強ができるようにするなど、身近で幅広い啓発に努めています。

### ● 緊急事態への対応訓練

各拠点では緊急事態を想定し、その対応策やコミュニケーションについての手順書の作成も行っています。手順書に基づき定期的に緊急事態対応訓練を実施し、手順書の有効性を確認することにより、汚染物質の拡大防止の方法を実践を通じて習得しています。また、タンクローリーからタンクへの補給作業など敷地内で作業していただく外部の方々にもご協力いただき、共同訓練を行っています。

### 化学物質流出対応訓練

Instruments Technology (Johor) Sdn.Bhd(マレーシア)では、化学物質流出緊急対策チームおよび関連部門の従業員を対象として化学物質流出対応訓練を行いました。全3部のセッションを通して、化学物質流出時の基本的な処理手順と対策を習得しました。まず、製造業向け化学物質流出対策や処理の重要性、適切な対処方法等をビデオ講義で学びます。次に講師による講義が行われます。そして、講師による流出処理のデモンストレーションに続いて、参加者が実習します。

この研修により、化学物質関連業務に携わる緊急対策チームや各従業員が、突然の化学物質流出の場合にも迅速かつ有効な対処ができるよう目指しています。



講師による講義



吸収マットで流出物質を吸収。その後、「流出した化学物質の上に立たないよう」とトレーナーがアドバイス



水で流して流出物質処理を開始

## グリーン購入

環境配慮型製品の創出には、部品や材料の一つひとつに及ぶまで環境に配慮していることが不可欠です。SIIグループでは、これらの生産材をはじめ、事務用品にいたるまで積極的にグリーン購入に取り組んでいます。

### ● サプライヤー認定制度

私たちはサプライヤーの環境管理体制を含めた『サプライヤー認定制度』を運用しています。認定にあたってはグループ統一の『サプライヤー認定基準書』を用い、その評価では環境管理体制が一定の水準を達成していることがサプライヤー認定の条件になっています。

今後は国内だけでなく海外サプライヤーについても認定範囲を拡大していきます。

### ● SIIグループのグリーン購入

私たちは、1999年より開発/設計、品質、調達部門が連携をとりグリーン購入活動に取り組んでいます。品質や価格だけの判断だけでなく、より環境負荷の少ない商品を、環境に配慮したサプライヤーから購入することを重要視し海外拠点も含め全SIIグループで取り組んでいます。

### ● 生産材のグリーン購入

私たちが購入する生産材については『SIIグリーン購入基準書』を用いて調査し、『品質+価格+納期+環境』の視点で総合判断し購入しています。

2003年度からは国内だけでなく、海外の化学物質規制に対応させた基準書に改訂し、調査内容を強化しています。

### ● SIIグリーン物品の定義

下記項目をすべてクリアした物品をグリーン物品として認定しています。

- ・環境管理体制調査結果がSIIグリーン基準を満たしている
- ・物品に禁止物質が含まれていない
- ・物品の製造工程において禁止物質が使用されていない

$$\text{グリーン購入率} = \frac{\text{グリーン品目マスタ数}}{\text{全品目マスタ数}}$$



### 中国華南地区サプライヤーへのRoHS指令対応説明会を開催

2005年9月、広州精工技術有限公司(略称:GSW)とSeiko Instruments(H.K.)Ltd.(略称:SIH)との共催で、中国華南地区のサプライヤー各社様に対しRoHS指令対応説明会を中国・広東省・深セン市にて開催しました。ウオッチコンプリート事業の関連拠点であるGSWとSIHでは、中国華南地区のサプライヤー各社から多くの部品の供給を受けており、サプライヤーの皆様のご協力は欠かせません。

当日は、中国・香港・日系企業80社のご出席を得て、SIIグループの環境方針、RoHS指令の概要、ウオッチ製品での対応方針について、日本語と広東語で説明を行いました。また、私たちの製品である蛍光X線分析装置での化学物質の分析デモも行い、サプライヤー各社様に規制対応へご理解とご協力や、SIIグループの環境活動へのご理解をお願い致しました。



説明会の様子

## 環境目標と実績

### 2005年度の結果

2005年度の取り組みの結果、製品関連はほぼ目標を達成できました。一方、拠点での取り組みは国内外ともにほとんどが目標を達成できませんでした。環境マネジメントでは海外拠点を含めた環境パフォーマンスの管理が定着し、環境コミュニケーションについてはホームページ上に国内拠点のサイトレポートを掲載し、充実を図りました。

環境パフォーマンス指標		2005年度目標	2005年度実績	評価	関連ページ
製品関連	環境配慮型製品の創出	SIIグリーン商品の売上比率を向上する	70%	☺	P37~
	化学物質の全廃	製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛(RoHS指令対象物質)含有を全廃する	全廃	☺	P44
		製品へのポリ塩化ビニルの含有を全廃する	全廃	☹	
国内拠点	地球温暖化防止対策	CO <sub>2</sub> 排出量を削減する	69,318トン-CO <sub>2</sub> 前年度比-0.5%	☹	P41~
	廃棄物削減と再資源化	廃棄物総発生量を削減する	2,506トン 前年度比-3%	☹	P43~
	化学物質削減と管理	PRTR法対象物質等 <sup>*2</sup> の排出量を削減する	6.2トン 前年度比-3%	☺	P44~
	水使用量削減	水使用量を削減する	870千m <sup>3</sup> 前年度比-1%	☹	P43
海外拠点	地球温暖化防止対策	CO <sub>2</sub> 排出量を削減する	39,148トン-CO <sub>2</sub> 前年度比-1%	☹	P41~
	廃棄物削減と再資源化	廃棄物総発生量を削減する	3,223トン 前年度比-3%	☹	P43~
	事務用紙使用量削減	事務用紙使用量を削減する	49.4トン 前年度比-3%	☺	P44

\*1:EU圏向け製品は2006年5月末に全廃達成しました。 \*2:PRTR法で定めている対象物質のほか、HFC類、PFC類、SF<sub>6</sub>を含んでいます。

### 中期計画

環境パフォーマンス指標		中期目標	2006年度目標
製品関連	環境配慮型製品の創出	SIIグリーン商品の売上比率を2006年度末までに90%以上にする	90%
	化学物質の全廃	RoHS指令対象外の製品およびEU圏以外向け製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛、の含有を2006年度末までに全廃する	全廃
		製品へのポリ塩化ビニルの含有を2006年度末までに全廃する <sup>*1</sup>	全廃
国内拠点	地球温暖化防止対策	CO <sub>2</sub> 排出量を69,803トン-CO <sub>2</sub> 以下に抑制する	69,803トン-CO <sub>2</sub> 以下
	廃棄物削減と再資源化	廃棄物総発生量を2010年度末までに2000年度比50%削減する	4,322トン 2,161トン
	化学物質削減と管理	PRTR法対象物質の排出量およびVOC(揮発性有機化合物)排出量を削減する(2007年度に目標を設定し削減を行う)	数値把握
	水使用量削減	水使用量を毎年前年度比1%削減する	974千m <sup>3</sup> 前年度比-1%
海外拠点	地球温暖化防止対策	CO <sub>2</sub> 排出量を毎年前年度比1%削減する	42,054トン-CO <sub>2</sub> 前年度比-1%
	廃棄物削減と再資源化	廃棄物総発生量を毎年前年度比3%削減する	3,620トン 前年度比-3%
	事務用紙使用量削減	事務用紙使用量を毎年前年度比3%削減する	43.1トン 前年度比-3%
	水使用量削減	水使用量を毎年前年度比1%削減する	637千m <sup>3</sup> 前年度比-1%

\*1:安全規格上で使用するものや代替が困難なものは除く

環境マネジメント指標		取り組み項目
環境マネジメントシステム		海外拠点を含めた連結の環境パフォーマンスを管理していく 業務に密着した取り組みテーマの充実を図る
地域・社会貢献		社員が参画できる環境活動での地域・社会貢献に取り組む

## 環境会計

### 環境会計集計結果

SIIグループでは環境活動にかかるコストとその効果を定量的に把握し、評価する環境会計を1999年度より導入しています。集計にあたっては環境省のガイドラインを参考に「SII環境会計集計ガイドライン」を策定し行っています。

2005年度の集計の結果、投資額は約168百万円(前年度比約65百万円増)で、費用額は約1,512百万円(前年度比約152百万円減)でした。設備投資の増加は、公害防止に関する投資や研究開発に関する投資によるものです。費用については総額では減少しましたが、上・下流コストや研究開発コストでは増加し、製品に関わる活動が進んだと言えます。一方、環境保全効果では生産の増加に伴い、前年度と比較すると一般廃棄物以外の項目では効果ができませんでした。

分類	内容	投資額 <sup>*1</sup>		増減	費用額 <sup>*2</sup>		増減
		2005年度	2004年度		( '05-'04)	2005年度	
(1)事業エリア内コスト							
内訳	公害防止コスト	74.2	35.0	39.2	426.1	500.5	-74.4
	地球環境保全コスト	39.2	41.0	-1.8	109.6	155.3	-45.7
	資源循環コスト	20.2	13.9	6.3	341.6	372.4	-30.8
(2)上・下流コスト	環境配慮型製品の開発 製品・容器包装等のリサイクルなど	0.0	0.0	0.0	130.2	78.4	51.8
(3)管理活動コスト	環境教育、環境情報の開示 環境マネジメントシステムの運用など	0.0	0.0	0.0	316.6	391.7	-75.1
(4)研究開発コスト	環境に関する研究開発など	34.7	13.2	21.5	185.4	163.5	21.9
(5)社会活動コスト	環境保護団体、地域への支援など	0.0	0.0	0.0	3.0	2.6	0.4
(6)環境損傷コスト	土壌汚染修復費など	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		168.3	103.1	65.2	1,512.5	1,664.4	-151.9

\*1 投資額は2005年度単年での投資額です。全額を環境保全コストと判断できない場合は按分集計を行っています。  
\*2 費用額には2004年以前の減価償却費を含んでいます。(投資額を設備は5年、施設は10年で均等に分割して算出)全額を環境保全コストと判断できない場合は按分集計を行っています。

環境負荷	削減量('04 - '05)
CO <sub>2</sub>	-2,759トン-CO <sub>2</sub>
用水	-105千m <sup>3</sup>
紙資源	-3トン
産業廃棄物	-366トン
一般廃棄物	12トン
新規材料購入抑制量 <sup>*3</sup>	661.1トン

\*3 廃油、廃プラなどをリサイクルして再利用した量を、新規購入抑制量として算出しています。  
\*4 \*3の材料購入抑制量を金額換算し、新規購入抑制金額として算出しています。

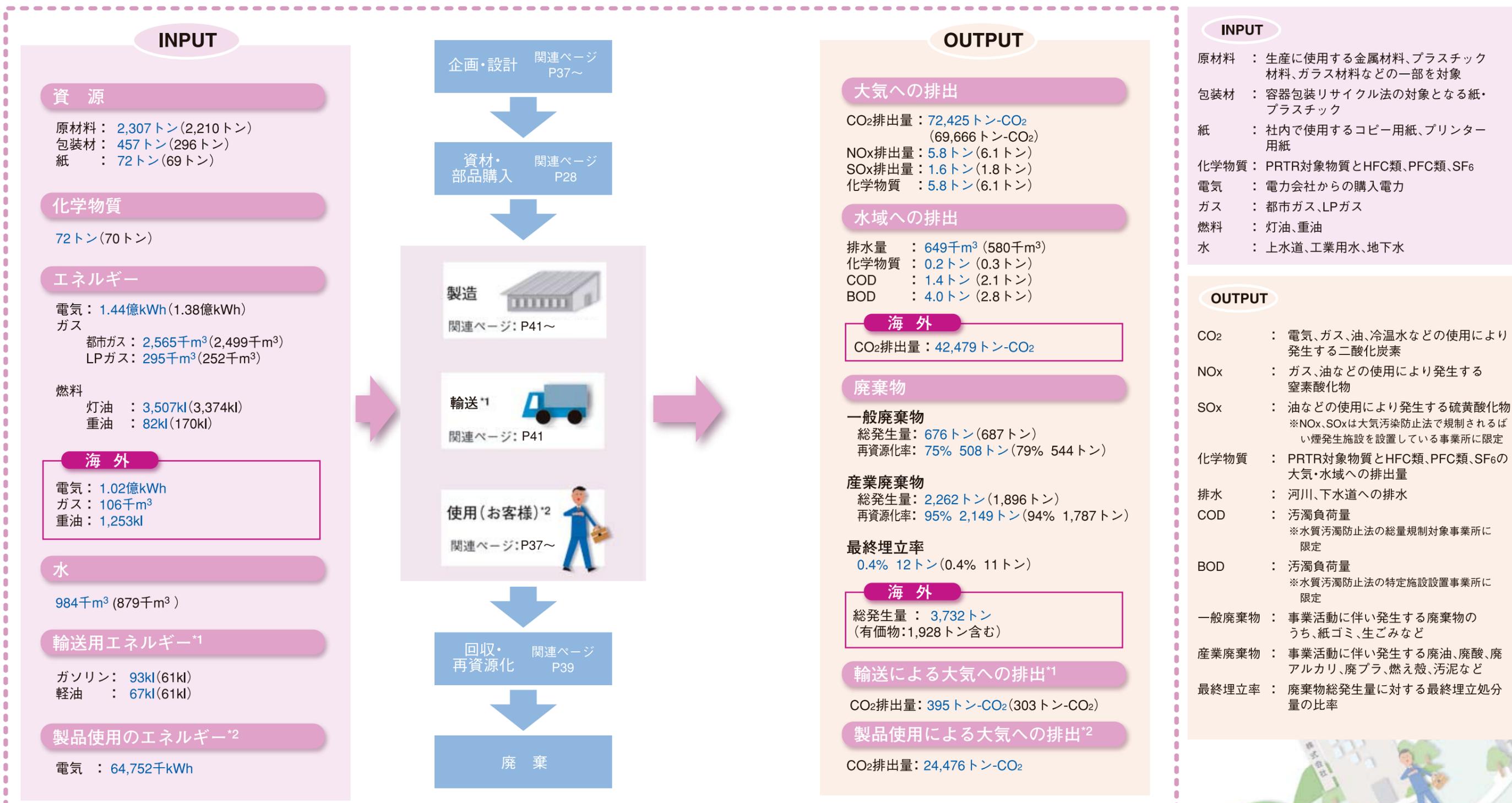
実質効果の内容	実質効果金額
省エネルギーによる費用削減	-98.0
省資源による費用の削減(水)	-17.6
省資源による費用の削減(紙)	-0.4
廃棄物処理費用の削減	-11.6
有価物など売却による収入	12.9
新規材料購入抑制金額 <sup>*4</sup>	412.4
合計	297.7

環境リスク回避効果試算	試算効果
大気、水質汚染などによる操業停止回避	324.0
不法投棄などによる罰則の回避・その他	63.9
合計	387.9
経済効果総合計	685.6

# 事業活動と環境負荷

SIIグループでは多くの資源やエネルギーを使用し、CO<sub>2</sub>や廃棄物を排出しながらものづくりを行っています。環境負荷を製品のライフサイクルを通して的確に把握していくことは環境活動の基本だと考えています。2005年度の環境負荷の概要は次の通りです。今回より海外拠点のデータも一部報告いたします。今後も把握の対象範囲を広げて、私たちの事業活動の環境への影響を捉えて環境負荷の低減に取り組んでいきます。

●対象範囲：国内拠点（一部の海外拠点含む）  
●（ ）は2004年度の実績



\*1輸送：国内のSIIグループ間の輸送のみを対象 \*2使用：2005年度SIIグリーン商品認定品を対象に1年間の使用で推計

# 拠点概要と環境負荷 < 国内 >

SIIグループの環境活動の対象である国内10拠点の事業概要と環境負荷データです。

## 東北エリア

株式会社エスアイアイ・マイクロパーツ(略称:SMP) ISO14001認証取得:1999年2月

所在地 宮城県仙台市 事業概要 電池、キャパシタなどの電子部品、精密機器用材料の製造など	IN エネルギー 電力 11,645千kWh LPガス 266千m <sup>3</sup>	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 6,012トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 106トン 再資源量 102トン (有価物含む)
---	---	---

盛岡セイコー工業株式会社(略称:MSI) ISO14001認証取得:1997年4月

所在地 岩手県岩手郡雫石町 事業概要 ウォッチの一貫生産及び製造技術開発、ウォッチ部品の製造など 雫石高級時計工房	IN エネルギー 電力 20,174千kWh 重油 7kl 灯油 1,120kl LPガス 21千m <sup>3</sup>	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 10,665トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 573トン 再資源量 539トン (有価物含む)
---	--	--

エスアイアイ・マイクロテクノ株式会社(略称:SMT) ISO14001認証取得:1997年4月

所在地 秋田県大仙市 事業概要 携帯電話用LCD、LCMの製造、ICパッケージ実装など	IN エネルギー 電力 22,041千kWh 灯油 1,931kl LPガス 2千m <sup>3</sup>	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 13,298トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 611トン 再資源量 525トン (有価物含む)
--	---	--

- 本社
- 事業所
- 関連会社
- 支店
- 営業所

## 関西エリア

大阪支店 ISO14001認証取得:2002年9月

所在地 大阪府豊中市 事業概要 電子部品、分析・計測機器、情報機器及び関連製品等の営業・技術サポート・アフターサービスなど	IN エネルギー 電力 336千kWh 地域冷暖房 1,409GJ	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 172トン-CO <sub>2</sub>
--	--	--

対象拠点: 大阪支店 / 名古屋支店 / 富山営業所 / 広島営業所 / 福岡営業所

上記以外の環境情報については下記ホームページを御覧下さい。  
<http://www.sii.co.jp/eco/>

## 関東エリア

本社・幕張事業所 仙台・大宮・水戸・立川・横浜営業所含む ISO14001認証取得:2001年10月

所在地 千葉県千葉市美浜区 事業概要 SIIグループの本社機能、時計、電子辞書、IT関連機器の開発・販売および電子部品の営業など	IN エネルギー 電力 9,110千kWh 都市ガス 31千m <sup>3</sup> 地域冷暖房 18,667GJ	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 4,130トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 204トン 再資源量 155トン (有価物含む)
---	---	---

高塚事業所 水戸・筑波営業所含む ISO14001認証取得:1996年11月

所在地 千葉県松戸市 事業概要 半導体電子部品の開発・製造およびマイクロテクノロジー・電子デバイスの開発、マイクロメカトロニクスの開発・設計・生産技術など	IN エネルギー 電力 54,372千kWh 重油 49kl 都市ガス 2,327千m <sup>3</sup>	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 26,346トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 794トン 再資源量 698トン (有価物含む)
--	--	--

大野事業所 ISO14001認証取得:1999年3月

所在地 千葉県市川市 事業概要 切削工具、治具、精密部品、小物自動車部品の製造・販売など	IN エネルギー 電力 7,073千kWh 都市ガス 187千m <sup>3</sup>	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 3,137トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 326トン 再資源量 326トン (有価物含む)
---	--	---

宮久保事業所 ISO14001認証取得:1997年3月

所在地 千葉県市川市 事業概要 小型モータの製造、フレキシブル基板製造、インクジェットプリントヘッドの製造など	IN エネルギー 電力 4,120千kWh 都市ガス 7千m <sup>3</sup>	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 1,588トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 90トン 再資源量 90トン (有価物含む)
--	--	---

エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社(小山事業所) ISO14001認証取得:1998年8月

所在地 静岡県駿東郡小山町 事業概要 分析・計測機器、音響機器の開発・製造など	IN エネルギー 電力 4,960千kWh 重油 14kl 灯油 451kl LPガス 4千m <sup>3</sup>	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 3,093トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 77トン 再資源量 72トン (有価物含む)
--	---	---

栃木事業所 ISO14001認証取得:1998年2月

所在地 栃木県栃木市 事業概要 水晶振動子の製造など	IN エネルギー 電力 10,095千kWh 灯油 5kl LPガス 3千m <sup>3</sup>	OUT CO <sub>2</sub> 排出量 3,880トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 126トン 再資源量 126トン (有価物含む)
-------------------------------	---	---



# 拠点概要と環境負荷 < 海外 >

SIIグループの環境活動の対象である海外7拠点の事業概要と環境負荷データです。

## 中国エリア

**大連精工電子有限公司(略称:DSI)** ISO14001認証取得:2001年6月

所在地 大連 事業概要 ウォッチ部品・電子制御ABSシステム用部品・小型治工具及び刃具の製造と販売	IN	OUT
	エネルギー 電力 13,360千kWh ガス 105千m <sup>3</sup> 蒸気 4千t	CO <sub>2</sub> 排出量 5,377トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 382トン 有価物量 185トン

**広州精工電子有限公司(略称:GSI)** ISO14001認証取得:2003年7月

所在地 広州 事業概要 液晶表示モジュールの製造・販売	IN	OUT
	エネルギー 電力 10,915千kWh 重油 1,000kl	CO <sub>2</sub> 排出量 6,860トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 974トン

**広州精工技術有限公司(略称:GSW)** ISO14001認証取得:2005年3月

所在地 広州 事業概要 ウォッチ部品の製造・組立及び販売	IN	OUT
	エネルギー 電力 4,889千kWh 重油 253kl	CO <sub>2</sub> 排出量 2,549トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 12トン 有価物量 3トン

**Seiko Instruments(H.K.)Ltd.(略称:SIH)** ISO14001認証取得:2005年3月

所在地 香港 事業概要 ウォッチ・コンプリートの製造・販売、液晶表示モジュールの製造・販売、ウォッチ・ムーブメントの販売、半導体等のネットワーク・コンポーネント製品の販売、サーマルプリンタの販売	IN	OUT
	エネルギー 電力 854千kWh	CO <sub>2</sub> 排出量 326トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 7トン



## 東南アジアエリア

**Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd.(略称:SIS)** ISO14001認証取得:1997年5月

所在地 シンガポール 事業概要 ウォッチムーブメント/部品・水晶振動子・サーマルプリンタの製造、電子部品の販売	IN	OUT
	エネルギー 電力 17,155千kWh	CO <sub>2</sub> 排出量 6,542トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 216トン 有価物量 112トン

**Seiko Instruments(Thailand)Ltd(略称:SIT)** ISO14001認証取得:2002年3月

所在地 タイ 事業概要 ハードディスクドライブ(HDD)部品の製造	IN	OUT
	エネルギー 電力 44,691千kWh	CO <sub>2</sub> 排出量 17,042トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 1,997トン 有価物量 1,564トン

**Instruments Technology(Johor)Sdn.Bhd(略称:INTECH)** ISO14001認証取得:2002年10月

所在地 マレーシア 事業概要 ウォッチムーブメント組立/部品製造、サーマルプリンタ組立	IN	OUT
	エネルギー 電力 9,922千kWh	CO <sub>2</sub> 排出量 3,784トン-CO <sub>2</sub> 廃棄物 総発生量 143トン 有価物量 66トン

# 環境に配慮した製品

メーカーであるSIIグループにとって環境に配慮した製品を創り出し、社会に提供していくことは使命と考えます。企画・設計の段階から製品のライフサイクルに考慮し製品づくりを行っています。

## ● SIIグリーン商品ラベル

私たちは、当社の環境配慮型製品を広く知っていただくために、2001年12月より環境ラベルタイプ（ISO14021）に相当する『SIIグリーン商品ラベル』制度を導入しています。『SIIグリーン商品』は、当社が独自に定めた5段階評価方式の環境配慮基準（SIIグリーン商品基準）に基づき評価を行い、平均点が3.5点以上をクリアした商品に対して認定するものです。



## ● 製品の環境配慮の考え方

製品の環境配慮は、省エネ、省資源、有害物質排除を重要項目とし、そのほか製品の長寿命、梱包、生産工程、情報開示なども含めた製品のライフサイクルにわたる19項目を評価改善対象としています。

SIIグリーン商品基準はシステムの有効性維持のため、2年に1度見直し改訂を行います。2005年度は全製品で基準見直しを行い、今後も常に環境トッパーを目指した製品開発を進めていきます。

### SIIグリーン商品基準の環境配慮項目

No	環境配慮項目
1	使用時消費電力
2	待機時消費電力
3	製品の重量
4	再使用部品・リサイクル材料使用部品使用
5	使用済製品のリサイクル可能性
6	製品の長寿命化
7	物品への含有回避物質(＊)の含有抑制
8	物品への含有全廃物質(＊)の含有抑制
9	物品への含有禁止物質(＊)の含有禁止
10	梱包の小型化・軽量化
11	梱包での発泡材使用抑制
12	梱包での塩ビ、重金属使用回避
13	製造工程での省エネ
14	製造工程での省資源
15	製造工程での使用回避物質(＊)の使用抑制
16	製造工程での使用禁止物質(＊)の使用禁止
17	解体作業容易性
18	分別作業容易性
19	取説等への情報開示

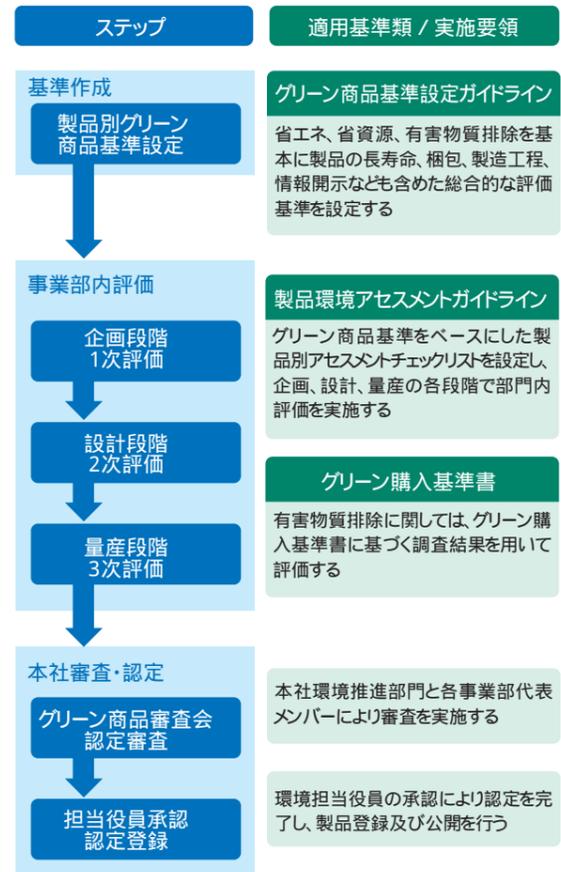
\*当社基準

## 2005年度の総括

SIIグリーン商品の売上比率は目標70%に対し実績は73.2%で目標を達成することができました。2005年1月の新製品からはSII含有全廃対象5物質(カドミウム、六価クロム、水銀、鉛、ポリ塩化ビニル)をSIIグリーン商品認定の必須条件としました。LCAの実施事例が増えました。

## ● グリーン商品認定までのステップ

評価改善対象19項目について、グリーン商品基準および製品環境アセスメントチェックリストを作成し、以下のステップでグリーン商品認定を実施しています。

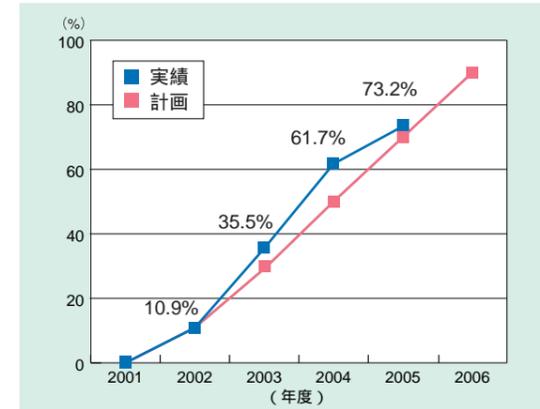


グリーン商品の審査には全事業部門の開発・設計者が関与しているため、公平、客観的で、広い見地からの審査が行われるとともに、事業部間の情報交換やレベル合わせにも役立っています。

2005年度は開発段階での評価判定基準を強化しました。2006年度は実施の定着を図ることで環境配慮レベルをさらに向上させていく計画です。

## ● 2005年度の実績

2005年度は「SIIグリーン商品」の売上比率が73.2%で目標70%を達成することができました。中でもデータ通信カードなどの一般民生品や、半導体、水晶振動子、LCDモジュールなどの電子部品は90%前後の高率を達成しています。大型の工作機械や分析・計測装置などは目標に達することができませんでした。HDD用コンポーネントなどが新たな認定商品分野に加わるなど、私たちの幅広い商品分野で環境配慮への取り組みが進んでいます。



## ● グリーン商品の環境情報の開示

SIIグリーン商品は下記ホームページに掲載し製品の環境情報を紹介しています。

<http://www.sii.co.jp/eco/greenproducts.html>

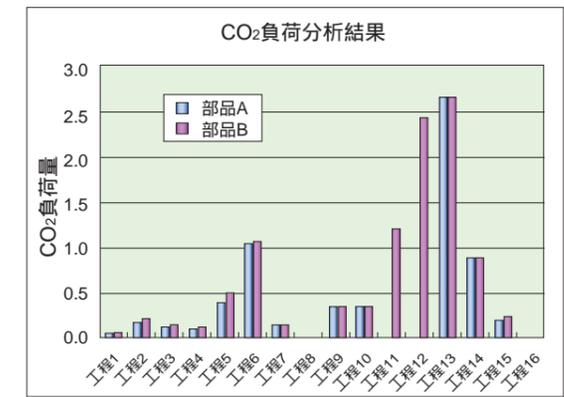
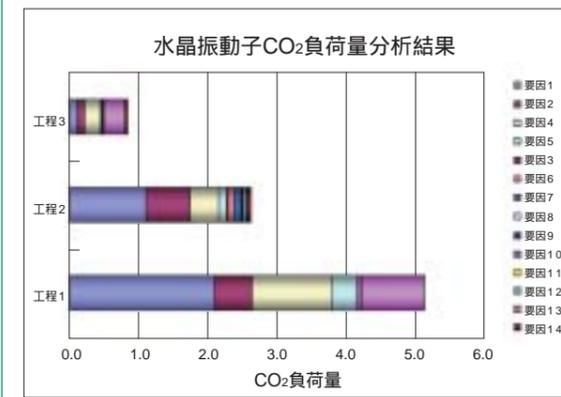


## ● LCAの実施

私たちは、2001年からLCAの試行を開始し、時計の駆動部やサーマルプリンタのメカユニットなどでインベントリ分析を実施しました。この試行結果のノウハウをまとめた「SII LCAガイドライン」を2002年3月に発行し、これをベースに他の製品への水平展開を進めてきました。

### < LCAの事例 ~ 製品に適した目的・範囲を設定 ~ >

私たちはLCAを実施するに当たり、製品の特徴に適した目的・範囲の設定を考慮して分析を進めてきました。ウオッチムーブメントでは、アナログクォーツ、デジタルクォーツ、機械式時計、低価格量産機種、高価格高機能機種など駆動方式や機能ジャンルで環境負荷がどのように変化するかを比較し、製品戦略の展開に活用しました。電子辞書やデータ通信カードでは、新旧製品の比較を行い、限られた製品サイズの中で環境負荷を少なくするためにどのような部品を選択するか、どのような構造を採用するかなどの方向付けに活用しました。工作機械などの大型製品では、ライフサイクルの中でどのステージが、またどの部品の素材や製造工程が大きな環境負荷を占めているかを分析し、それらを改善することで大幅な環境負荷低減に貢献しました。勿論、新旧製品の比較によって改善レベルの把握も行っています。半導体や水晶振動子などの電子部品では、使用段階以降の環境負荷の把握は難しいため、主に製造段階で工程別の環境負荷分析とそれに基づく改善を行うことで、環境負荷低減に貢献しました。私たちはこのようなLCAによる分析結果を今後も新製品の開発設計に活かして、より環境負荷の少ない製品を世の中に送り出していきます。



水晶振動子における工程分析の事例

\*:LCA(Life Cycle Assessment:ライフサイクルアセスメント)商品のライフサイクル全体にわたる環境影響を定量的に評価する手法。

### ● 回収と再資源化

私たちは資源の有効活用のため使用済みの製品や消耗品の回収と再資源化に取り組んでいます。

#### カートリッジの回収

使用済みのトナーカートリッジ、廃トナーボトル等は回収を行っています。

回収センターに集められたカートリッジ等は、分解し、素材毎にきめ細かく分別を行い、リサイクルしています。プラスチック類は破碎し、再びプラスチックの材料になります。金属類は、素材として再利用します。

このような適正な処理フローにより、回収したトナーカートリッジの約90%がリサイクル可能となっています。

#### データ通信カードの回収

社団法人電気通信事業者協会と情報通信ネットワーク産業協会が共同で取り組んでいるモバイル・リサイクル・ネットワークに参加し、データ通信カードの回収・リサイクルを実施しています。



モバイル・リサイクル・ネットワーク  
携帯電話・PHSのリサイクルにご協力を。

#### 梱包箱への表示

梱包箱にはモバイル・リサイクル・ネットワークのマークを入れて、消費者の皆様へ回収のご協力をお願いします。梱包箱には大豆油インクを使用するなど梱包箱への環境配慮も実施しています。



モバイル・リサイクル・ネットワークのマーク

大豆油インク使用

#### 二次電池の回収

有限責任中間法人JBRCに参画し、小形二次電池のリサイクルを実施しています。



#### 容器包装の回収

財団法人日本容器包装リサイクル協会に委託し、回収・リサイクルしています。

### これから取り組んでいくこと

- ・ 06年度はグリーン商品売上比率90%を目標に設定し、量的な拡大を図るとともに、より高い環境配慮レベルを目指す仕組を検討していきます。
- ・ LCAによる定量評価を定着させ環境に配慮した製品への取り組みを強化、充実していきます。

## SIIグリーン商品の事例

### 高精度・高能率の内面研削盤

SIG03

これまでの高精度・高能率の特長を継承しつつ、最近のワークサイズの大型化傾向に対応するため、ベアリング外径 100mmまで研削可能としました。高度な精度が求められる、ボールベアリング外輪内周のボール転動面、内輪内周面、自動車用部品などの研削加工を行います。



消費電力は  
**25%削減**  
製品重量は  
**28%削減**  
フロアスペースは  
**36%削減**  
省エネ・省資源・省スペースに大きく貢献

\*当社従来製品比

#### 主な環境配慮項目

使用時消費電力は25%の大幅削減を達成(当社従来製品比)、製品重量は28%、フロアスペースは36%の大幅削減を達成(いずれも当社従来製品比)するなど、省エネ・省資源・省スペースに大きく貢献しています。

### データ通信カード

AX420S

コンパクトフラッシュタイプ I の採用により、薄くて軽い本体を実現しました。タイプ I なら、タイプ II スロットでも使えるので、より多くのパソコンやPDAで使用可能です。

#### 主な環境配慮項目

使用時消費電力は693mWで8%の削減(3.3V時、当社従来製品比)を達成し省エネに貢献しました。当社規定の有害全廃5物質の非含有を達成しました。また梱包材には発泡材、ポリ塩化ビニル、重金属などは一切使用せず、パッケージや取扱説明書への印刷は大豆油インクを使用しています。モバイル・リサイクル・ネットワークに参加し、販売店での回収を実施しています。



省エネ  
消費電力  
**8%削減**

\*当社従来製品比

### ネットワークコンポーネント

「匠」の技と精神で、最先端の携帯電話や、小型携帯機器の設計・開発ソリューションを提供します。

#### 主な環境配慮項目

超小型高精度電圧検出器S-1000シリーズは最低動作電圧0.95V、消費電流350nA、新小型パッケージSNT4N採用などいずれも業界トップレベルです。LCDモジュールRA141(128×160のTFT LCDモジュール)は全ON表示時4.2mWのパネル消費電力で省エネに貢献しています。二次電池TS414Hは100%充放電で100サイクル以上の長寿命を実現しています。水晶振動子SSP-T7-FIは製品重量28mgの小型化を実現しています。いずれも端子・基板のハンダの鉛フリーを実現し、当社規定の有害全廃5物質の非含有を達成しました。



小型携帯機器の  
省エネ・省資源・有害物質削減に貢献

\*当社従来製品比

### HDD用コンポーネント

05年度は新たにHDD用コンポーネントでグリーン商品が誕生しました。HDDに使用されるベアリング、ピボット、モータ部品で環境配慮レベルを評価する基準を作成し、これに基づいて評価、審査を行い、多数の製品が認定されました。

#### 主な環境配慮項目

使用済み製品のリサイクル可能率は90%。当社規定の有害全廃5物質の非含有を達成しました。また梱包材には発泡剤、ポリ塩化ビニル、重金属などは一切使用していません。さらにお客様に対して化学物質含有状況に関する情報を開示しています。これらの商品はRoHS指令に準拠しています。



モータ部品

ピボット

ベアリング

### 電子辞書

SR-V7130シリーズ

スタイリッシュ・スリムデザインでサクサク入力できるカイトキーを採用しました。さらに後から辞書を追加できるシルカ<sup>(1)</sup>カードスロットを搭載しました。(1)「シルカ」は、SIIオリジナルコンテンツカードの愛称です。

#### 主な環境配慮項目

セラミックスピーカによる音声機能の搭載により、低消費電力化、軽量化、薄型化を実現し、マグネシウム合金を使用したダンパーシェル構造の採用により、軽い、薄い、強いを実現しました。また梱包材には発泡材、塩ビ、重金属などは一切使用せず、ユニット化による分解・組立容易構造の採用により生産ラインでの省エネや廃棄時の分別容易化を実現、さらに5g以上のプラスチック部品への材料名表示により使用済み製品の分別性を向上させました。これらによりクラス<sup>(2)</sup>トップレベルの省エネと省資源に貢献しています。



クラス<sup>(2)</sup>  
トップレベルの  
省エネと省資源を  
実現

(2) 4.8インチ相当QVGA(表示可能領域240×320ドット)液晶採用の電子辞書

### 「グリーン購入法」適合商品の一例

私たちはグリーン購入法に適合したプリンタやプロッタ、情報用紙も提供しています。

### ネットワーク

### マルチファンクションプロッタ

LP-1010 Series

A0サイズの出力に対応しながら、幅1,150mm×奥行き552mmとA1機並のコンパクト設計で設置面積の省スペース化を実現しました。最新の高速/高耐久プリントエンジンによりA1で6.2枚/分、A0で3.4枚/分の高速出力にもかかわらず100V電源で1,440W以下という低消費電力を実現しています。これにより、一般オフィスの電源(15A)でそのまま使用できます。また、このプロッタに使用する各種用紙も提供し、古紙100%の再生紙はグリーン購入法適合商品です。



# ものづくりでの取り組み

SIIグループはものづくりの上で貴重で限りある資源を使い環境に負荷を与えています。その事実を認識し、地球温暖化防止、3R活動、化学物質管理を重要な課題として環境負荷低減の取り組みを推進しています。

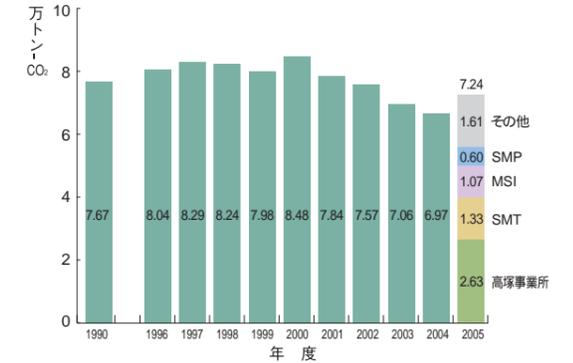
## 地球温暖化防止への取り組み

京都議定書が発効し、地球温暖化対策をより一層強力に推進していくことが求められています。SIIグループではものづくりの現場やオフィスでの省エネ、私たちが提供する製品の省エネと、全事業活動を通じて地球温暖化防止に取り組んでいます。

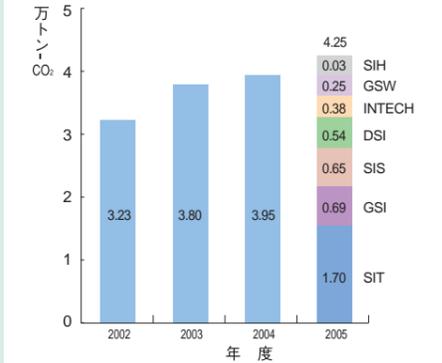
### 2005年度の総括

CO<sub>2</sub>の排出量は生産増加に伴い国内、海外ともに残念ながら2005年度の目標を達成できませんでした。

CO<sub>2</sub>排出量の推移(国内拠点)



CO<sub>2</sub>排出量の推移(海外拠点)



国内 CO<sub>2</sub>排出量 72,425トン-CO<sub>2</sub>  
(前年度比+4% 2,759トン-CO<sub>2</sub>増加)

海外 CO<sub>2</sub>排出量 42,479トン-CO<sub>2</sub>  
(前年度比+7.4% 2,935トン-CO<sub>2</sub>増加)

正式な社名はP33・P35・P36を御覧ください。

### 空調設備の改善

Seiko Instruments(Thailand)Ltd.(略称:SIT)ではエアコン用コンプレッサの冷媒を代替することにより空調設備電力消費量の年間5%削減に取り組んでいます。

SIT工場内にある約50台のコンプレッサには各々10kgずつのフロン(HCFC22)を充填して、圧力を高圧まで高める必要があったため、多くの電力を使用しています。そこで冷媒を代替してテストを重ねた結果、年間5%の電力消費削減に有効と判断できました。新しい冷媒は塩素を含まない炭化水素系の冷媒で一台当たりの充填量は4kgと、従来よりも低圧で運転が可能になります。SITでは今後一年間かけて全コンプレッサの冷媒を切り替える予定です。

また、これまでは空調システム、機械システムなどが一緒になった集中型の電力計でしたが、空調設備の電力量を単独で測定できるように電力計を新たに取り付けました。これによってより精度の高いエネルギー管理が可能となりました。

### マイナスエア供給システムの改善

大連精工電子有限公司ではマイナスエアの供給システムの改善に取り組みました。これまでは2台の真空ポンプを使用し各々の職場にマイナスエア



節電型真空ポンプ

を供給していましたが、供給システムを見直し新たに節電タイプの真空ポンプを導入することによって、一台のポンプで従来通りのエア供給が可能になりました。これにより年間67%の省エネにつながりました。

## 物流での取り組み

物流は製造に欠かせない工程であるとともに、さまざまな環境負荷を発生させています。SIIグループでは、包装・荷役・輸送・保管といった場面で環境に配慮した改善を行い、環境負荷の低減に努めています。

### 輸送の改善

小山事業所の物流部門では2005年12月より修理点検部品の輸送を単独でのチャーター便から混載便の使用に変更し、輸送の最適化を図りました。これにより年間21.4トンのCO<sub>2</sub>を削減できることになりました。

### 梱包の改善

部品輸送用の梱包材は可能な限り再利用しています。小山事業所では修理部品発送用のダンボール箱を年間約1,600枚再利用しました。また、盛岡セイコー工業では時計のムーブメント用のトレーを年間約3,000枚再利用しています。これらの取り組みは廃棄物削減にもつながっています。

## 栃木事業所の省エネ活動

栃木事業所では継続的に知恵を絞った省エネ活動に取り組んでいます。栃木事業所の強みは設備・施設部門が製造工程や製品の品質条件を熟知していることです。そのため、製品の品質を保ちながら製造工程での踏み込んだ省エネ活動に取り組むことができます。

栃木事業所は継続的な省エネ活動が認められ、関東地区電気使用合理化委員会より平成16年度エネルギー管理優良工場、関東経済産業局長賞を受賞しました。



### クリーンルーム給気ファン改善

ウェハーの洗浄・スパッタ工程のクリーンルームはクリーン度を維持するために室内を陽圧にする必要があります。従来は外調機の給気ファンの能力は100%で稼働しダンパーで給気量を調整していました。そこで、外調機の給気ファンをインバータ制御できるようにしました。クリーンルーム内の室圧をセンサーで検出し、そのデータを利用し給気ファン



外調機

をコントロールすることで、給気量を必要量に抑制することが可能になりました。これにより、給気ファンの運転を30%稼働に削減することができました。

さらに、これまでは排出していたクリーンルームの余剰空気の一部を取り込んで、導入する外気に混合させることで、空調負荷量を減らすことができました。

これらの取り組みにより年間16万kwhの省エネが実現しました。

### 推進事務局からひとこと

省エネルギーの主な活動は、消費電力の大きかった空調関係「クリンルーム換気再利用による空調電力の削減」「空調設備の更新による空調電力の削減」「遮光ネットによる空調室外機の負荷低減」などを実施しました。また、全員参加活動の照明やパソコンのON-OFF活動、高効率照明への更新や人感センサーの導入を進め、省エネ意識の向上を図りました。

今後も地球温暖化対策計画に基づいて、事業所一丸となって活動を展開していきます。



水晶管理課 課長 芹沢 悦男 水晶管理課 大阿久 一三

## 私たちは環境省が提唱する地球温暖化防止に関する数々のキャンペーンに参加しています。



京都議定書の目標を達成するための国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参加しています。

### ライトダウンしました。

2006年6月16日～18日、環境省が呼びかける『ライトダウンキャンペーン』に協力し、幕張本社ビルの屋上広告灯と地上広告灯をライトダウンしました。

### COOL BIZ(クールビズ)推進しています。

環境省が提唱する『COOL BIZ』に賛同し、『Cool Biz』を推進しています。(6月～9月)

私たちは従来より夏の冷房温度は28℃に設定し省エネに努めてきましたが28℃でも快適に仕事をするため、『Cool Biz』スタイルに衣替えるように呼びかけています。



社内ポスター

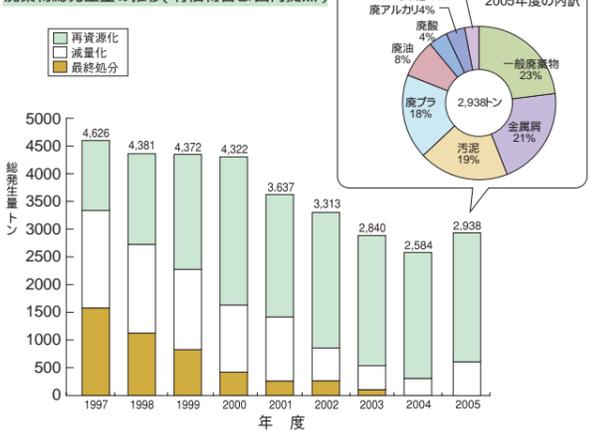
## 3R活動(リデュース・リユース・リサイクル)

メーカーとして限られた資源を大切に使うのは重要な使命です。SIIグループではすべての工程において資源をより有効に活用できる努力をしています。国内ではゼロエミッション達成を経て廃棄物総発生量の削減に力を入れています。

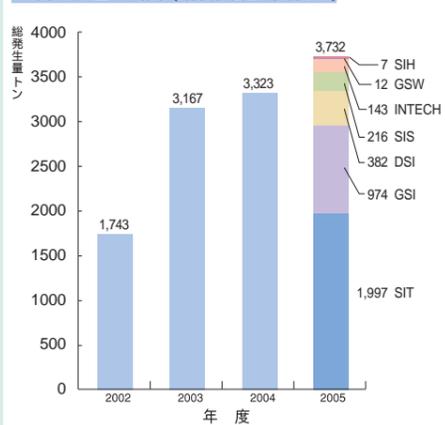
### 2005年度の総括

廃棄物総発生量は生産増加に伴い国内、海外ともに残念ながら2005年度の目標を達成できませんでした。

廃棄物総発生量の推移(有価物含む/国内拠点)



廃棄物総発生量の推移(有価物含む/海外拠点)



国内廃棄物総発生量 2,938トン  
(前年度比+14% 354トン増加)

海外廃棄物総発生量 3,732トン  
(前年度比+12% 409トン増加)

国内の水使用量も目標を達成できませんでした。国内水使用量 984千m<sup>3</sup>(前年度比+12% 105千m<sup>3</sup>増加)

正式な社名はP35・P36を御覧ください。

### 水の有効利用

ものづくりの上では水を大量に使用します。私たちは水の再利用に努め、貴重な水資源を有効に使用しています。

#### エスアイアイ・マイクロテック(略称:SMT)の取り組み

SMTでは純水使用量の増加対応として排水の再利用に取り組んでいます。新たに排水回収装置を導入し、これまで排出していた水を濾過し、製造工程において純水として再利用できるようにしました。

これにより年間19,200m<sup>3</sup>の上水の消費を抑えることが可能になりました。



排水回収装置

#### Seiko Instruments(Thailand)Ltd.(略称:SIT)の取り組み

SITではバレル工程での洗浄水に純水を利用していました。

これを他工程で利用した純水の再利用に切り替えました。バレル工程で純水の再利用をしても品質が充分保てることが確認されたため、他工程で利用した純水を回収して貯蔵しておくタンクを新設し、バレル工程



純水貯蔵タンク

で安定した純水の再利用ができるようにしました。

この取り組みは2005年11月から開始し、5ヶ月間で既に1,306m<sup>3</sup>の水使用量の削減ができました。

### 廃プラスチックの削減

Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd.では廃プラスチックの削減に継続的に取り組んでいます。射出成形機で発生するランナー(湯道)をすべて粉砕機で砕いて小さなチップ状にし、フィルターにかけて、詰まりの原因になるプラスチック粉末を除去します。フィルターにかけた材料はミキサーに自動投入され、リサイクル材90%、新規材10%の割合で均等に混ぜ、再び射出成形機に投入されます。リサイクルされないものはわずかにパージ材とプラスチックの粉末のみです。

この取り組みによって廃プラスチックは前年比で33%削減できました。



粉砕機でランナーをチップ状にする



フィルターに通す



新規材と混ぜる

### 紙資源の有効利用

#### 幕張事業所の取り組み

幕張事業所では2005年11月より紙資源の有効利用をより進めるため、これまで再生困難だった紙類についてもリサイクル技術をもつ委託先を新たに開拓し、再生利用を可能にしました。

紙類はトイレトーパーに再生され、幕張事業所で使用しています。



再生されたトイレトーパー

### 化学物質管理

SIIグループにとって化学物質を正しく安全に管理していくことは、リスクマネジメントの上でも重要だと考えます。購入から使用、保管、廃棄に至るまで一貫した管理を行っています。また製品への含有全廃についても取り組んでいます。

#### 2005年度の総括

製品含有化学物質の全廃活動の達成率は91%でした。(EU圏向けの製品は2006年5月末に全廃達成) PRTR法対象物質等の排出量は6.1トン削減(前年度比-5%)し2005年度の目標を達成しました。

### 化学物質管理

私たちは従来より特定フロンなどの全廃に取り組んできました。「SII化学物質ガイドマニュアル」を策定し、すべての業務領域で化学物質への関心と管理の向上を図っています。

#### 有機溶剤使用量の削減

私たちは自主的に化学物質の削減活動も展開しています。高塚事業所(千葉県)の半導体部門では検査工程で洗浄液として使用している揮発性有機溶剤の削減に取り組んでいます。検査部門と技術部門との連携の結果、約21%の使用量を削減することができました。今後も継続的に取り組んでいきます。

#### 製品含有化学物質の全廃活動

特定有害物質を含んだ電気・電子機器を2006年7月から販売禁止にするEUのRoHS指令<sup>1)</sup>をはじめ、中国や韓国など世界的にも同様な規制が広がってきています。

私たちは、RoHS指令の対象となる鉛をはじめ、カドミウム、6価クロム、水銀、そしてSII独自にポリ塩化ビニル<sup>2)</sup>を全廃対

#### Seiko Instruments(H.K.)Ltd.(略称:SIH)の取り組み

SIHではこれまで部門単位で行っていた紙の購入と管理を主管部門にて集中的に行うようにしました。会社全体の使用量の上限(目標値)を定め、購入を各部門毎の申告制として、主管部門が総枠管理を厳しく行った結果、紙使用についての意識が高まり、紙の使用量は前年度より18%削減することができました。

### 油の再利用

大野事業所(千葉県)では継続的に油の再利用に取り組んでいます。製造工程で発生する切粉に付着する油は切粉処理装置で濾過し、切削油は毎年約30%以上を、洗浄油は毎年22%以上を再利用しています。

象物質と定め、製品への非含有の取り組みについて2003年6月から活動してきました。全廃目標を2006年2月末に定めて活動した結果、電子部品など、最終製品に組み込まれるものは全廃対象物質の非含有をほぼ達成しました。また、部品点数が数千から数万にもおよぶ産業用製品である大型プリンタやネットワーク機器においても代替部品・部材選定および基板改版などの設計変更を実施してRoHS指令に対応しました。

しかし、私たちが自主的に定めたポリ塩化ビニルの全廃については、広範囲で使用されているため代替品の品質が安定せず全廃にいたりませんでした。今後もQCDS(品質・コスト・納期・安全・環境)のバランスを取りながら継続的に全廃を推進していきます。

<sup>1</sup>:RoHS指令(Restriction of the use of certain Hazardous Substances特定有害物質の使用制限指令)2003年2月発効のEU指令。2006年7月以降、EU圏内の市場に出される電気・電子機器に対し、カドミウム、六価クロム、水銀、鉛、PBB(ポリ臭化ビフェニル)、PBDE(ポリ臭化ジフェニルエーテル)の6物質の使用を禁止するもの。

<sup>2</sup>:ポリ塩化ビニルはSIIが自主的に定めた全廃対象物質



PRTR<sup>\*1</sup>の結果

2005年度のPRTRの結果は次の通りです。2004年度と比較して取扱量は1.4トン増加しましたが、排出量は0.4トン削減することができました。また、PRTR法で定められた対象物質のほか、SDI独自に排出量削減の対象としているHFC類、PFC類、SF<sub>6</sub>を含むと0.3トン削減することができました。

2005年度PRTR調査結果(国内拠点のみ)

(単位:kg)

化学物質名	取扱量	排出				移動		リサイクル	消費	除去処理
		大気への排出	公共水域への排出	当該事業所における土壌への排出	当該事業所における埋立処分	下水道への廃水の移動	廃棄物の当該事業所外への移動			
2-アミノエタノール	4,950	990	0	0	0	0	3,713	0	0	247
アンチモン及びその化合物	1,356	0	0	0	0	0	0	1,085	271	0
エチルベンゼン	524	152	0	0	0	0	372	0	0	0
キシレン	15,593	1,467	0	0	0	0	14,125	0	0	1
クロム及び3価クロム化合物	10	0	0	0	0	0	3	0	7	0
酢酸2-エトキシエチル	847	528	0	0	0	0	319	0	0	0
無機シアン化合物 (錯塩及びシアン酸塩を除く)	600	8	0	0	0	0	227	0	0	365
ジクロロペンタフルオロプロパン (HCFC-225)	167	147	0	0	0	0	20	0	0	0
水銀及びその化合物	261	0	0	0	0	0	10	0	251	0
1,3,5-トリメチルベンゼン	512	16	0	0	0	0	486	0	0	10
トルエン	2,984	1,593	0	0	0	0	1,391	0	0	0
鉛及びその化合物	146	0	0	0	0	0	0	110	36	0
ニッケル化合物	2,905	0	68	0	0	0	1,082	794	961	0
フェノール	977	146	0	0	0	0	782	0	0	49
ふっ化水素及びその水溶性塩	34,867	608	53	0	0	0	7,870	0	0	26,336
ほう素及びその化合物	140	0	118	0	0	0	9	8	5	0
ホルムアルデヒド (オキシエチレン) = ニルフェニルエーテル	65	0	0	0	0	0	0	32	0	33
マンガン及びその化合物	3,961	0	0	0	0	0	1,956	0	2,005	0
モリブデン及びその化合物	115	0	0	0	0	0	11	0	104	0
合計	70,980	5,655	239	0	0	0	32,376	2,029	3,640	27,041

\*1: PRTR( Pollutant Release and Transfer Register 化学物質排出移動量届出制度)  
化学物質の取扱量、環境中への排出量、廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量などを把握・集計し、公表する制度。企業はこの制度の対象となる化学物質について集計し、行政機関に年に1回届け出る。

工場の環境保全

SIIグループの製造拠点では緊急事態を想定した設備上のリスク対策を行い、工場の環境保全につとめています。

地下埋設配管からの漏洩防止

栃木事業所では化学物質による汚染防止のため、地下埋設配管を掘り出して、新たに側溝を設置し、その中に配管を通す構造にしました。配管が破損した場合の早期発見と土壌汚染を防ぐことができます。



側溝

工場騒音の改善

広州精工電子有限公司では近隣の居住地区に配慮して、騒音の低減に取り組みました。騒音の発生源へのより広い範囲での遮音壁の設置、排気・吸気システムの改善などを実施し、従来より約6dBの騒音低減ができました。



遮音壁

環境活動のあゆみ

会社沿革	環境活動
1881年 服部金太郎が個人経営で時計小売業 服部時計店(現 セイコー株式会社)を創業。	
1892年 時計製造工場 精工舎(現 セイコークロック株式会社、セイコープレジジョン株式会社)を創立。	
1937年 セイコーグループのウオッチ製造部門として、株式会社第二精工舎(現 セイコーインスツル株式会社)を設立。	
1964年 第18回オリンピック東京大会で、全種目にわたってセイコーグループの各種競技用時計が採用される。	
1967年 スイスのニューシャテル天文台コンクール腕クロノメータ部門で、上位入賞を独占。	
1969年 セイコーグループ、世界初のアナログクォーツウオッチを発表。	
1970年 多角化分野に進出。	
1983年 社名をセイコー電子工業株式会社と改める。	
1985年 世界最高水準の多品種少量生産ウオッチ外装部品自動組立システムを完成。	
1988年 世界初の多品種少量生産ウオッチムーブメント自動組立システムを完成。	12月 「フロン対策推進委員会」発足
1990年 セイコー電子工業グループの統合ブランドとして「SII」を採用。	
1992年 第25回オリンピックバルセロナ大会で、全種目にわたってセイコーグループの各種競技用時計が採用される。	8月 特定フロン全廃 12月 環境対策推進室設立(現 環境経営推進グループ)
1993年 幕張新都心に新社屋「SII幕張ビル」を建設し、本社・営業・開発の各機能を移転。	4月 環境保全行動計画「グリーンプラン」策定 通産省提出 8月 古紙回収車「グリーンアロー号」導入 11月 トリクロロエタン全廃
1994年 17回冬季オリンピックリレハンメル大会で、全種目にわたってセイコーグループの各種競技用時計が採用される。	4月 エネルギー、廃棄物、紙資源削減の月次管理スタート
1995年	8月 経営幹部会にて環境管理システム導入キックオフ(環境ISO14001対応)
1996年	8月 環境報告書の発行開始 11月 高塚事業所 SIIグループ初のISO14001認証取得
1997年 社名をセイコーインスツルメンツ株式会社と改める。 亀戸に大型商業施設「サンズリート」をオープン。	12月 アイロン・スチップキャンペーン開始
1998年 第18回冬季オリンピック長野大会で、全種目にわたってセイコーグループの各種競技用時計が採用される。	2月 SII化学物質ガイドマニュアル発行
1999年	3月 国内主要製造拠点ISO14001認証取得完了 国内主要拠点で塩素系溶剤(トリクロロエチレン・塩化メチレン)全廃 10月 SIIグループグリーン購入基準書発行
2000年	2月 環境会計導入 11月 大野事業所 SIIグループ初のゼロ・エミッション達成
2001年	10月 本社・幕張事業所 非製造拠点で初めてISO14001認証取得 12月 SIIグリーン商品ラベル制度導入
2002年 第19回冬季オリンピックソルトレイク大会で、全種目にわたってセイコーグループの各種競技用時計が採用される。	6月 SII温室効果ガス削減シナリオ策定 9月 西日本営業拠点、営業拠点として初めてISO14001認証取得
2003年	7月 広州精工電子有限公司(中国・広州)ISO14001認証取得 10月 国内営業拠点、西日本営業拠点から拡張しISO14001認証取得
2004年 社名をセイコーインスツル株式会社と改める。	3月 国内主要拠点でゼロエミッション達成 10月 鉛はんだ全廃達成
2005年	3月 広州精工技術有限公司(中国・広州)、Seiko Instruments(H.K.) Ltd.(香港)ISO14001認証取得

環境関連社外表彰

- 1996年10月 SIIグループ京葉地区6事業所古紙リサイクル活動「リサイクル推進協議会会長賞」受賞
- 1998年 6月 SIIマイクロテクノ株式会社 秋田県「環境大賞」受賞
- 1998年 6月 盛岡セイコー工業株式会社 岩手県「環境保全優良事業所」受賞
- 2000年 5月 幕張ビル「千葉市特定建築物環境衛生管理協議会会長賞」受賞
- 2005年 2月 栃木事業所「関東地区電気使用合理化委員会委員長賞最優秀賞」受賞  
盛岡セイコー工業株式会社「東北七県電力活用推進委員会委員長賞」受賞
- 2006年 2月 栃木事業所「関東地区電気使用合理化委員会関東経済産業局長賞」受賞

---

「社会・環境報告書2006」をお読みいただき、  
ありがとうございました。  
みなさまのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

---

本報告書は皆様との重要なコミュニケーションツールと考えています。  
私たちの社会性への取り組みや環境活動をできるだけわかりやすくお伝えできるよう努めました。まだまだ不十分な点もあるかと存じます。  
今後の私たちの社会・環境への取り組みや報告書をより充実させていくために、皆様のご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。  
お手数ですが、裏面のアンケートにご記入のうえ、以下宛先までFAXでご送付くださいますよう宜しくお願い申し上げます。



〒261-8507 千葉県千葉市美浜区中瀬1-8  
TEL:043-211-1149

セイコーインスツル株式会社  
環境経営推進グループ

FAX:043-211-8019

Q1 .この社会・環境報告書をお読みになって、どのようにお感じになりましたか？

(1) 報告書のわかりやすさ

わかりやすい          普通                          わかりにくい

(2) 報告書の内容

充実している          普通                          不足している

(3) 報告書のボリューム

多い                          ちょうどよい                  少ない

(4) 上記についての理由やご意見がありましたらお聞かせ下さい。

Q2 報告書の記載内容で特に印象に残った項目とその理由をお聞かせ下さい。(複数選択可)

ごあいさつ	トピックス	SIIグループのマネジメント	SIIグループの製品概要
ハイライト	社会性への取り組み	SIIグループの環境経営	事業活動と環境負荷
拠点概要と環境負荷	環境に配慮した製品	ものづくりでの取り組み	

Q3 .その他ご意見、ご感想などがございましたらお聞かせ下さい。

Q4 .この報告書をどのようなお立場でお読みになられましたか？

製品のユーザー	お取引先	企業の環境ご担当	環境NGO・NPO
政府・行政関係	報道関係	研究・教育関係	学生
金融・投資関係	SIIグループ事業所の近隣にお住まいの方	その他(                          )	

Q5 .この報告書は何を通じてお知りになりましたか？

当社のホームページ	当社以外のホームページ	展示会	セミナー・講演会	雑誌
当社からの送付	当社の営業担当者から	その他(                          )		

ご協力ありがとうございました。

次回の報告書の郵送を希望されますか？    希望する    希望しない  
郵送を希望される方は下記欄にもご記入下さい。

(ふりがな)

お名前

送付先ご住所(勤務先・ご自宅)

ご職業・勤務先

部署・役職名

【個人情報の取り扱いについて】

いただいた個人情報は適切な管理を行い、次回の報告書の郵送以外の利用、第三者への開示・提供は致しません。お寄せいただいたご意見、ご感想は個人を特定しない形で次回の報告書に掲載させていただく場合がございます。個人情報の取り扱いについてご不明な点、あるいは情報の訂正や削除の希望がありましたらセイコーインスツル(株)環境経営推進Gまでご連絡下さいますようお願い申し上げます。